



* 0058156000 *



0058156-000

CZ-1667-71

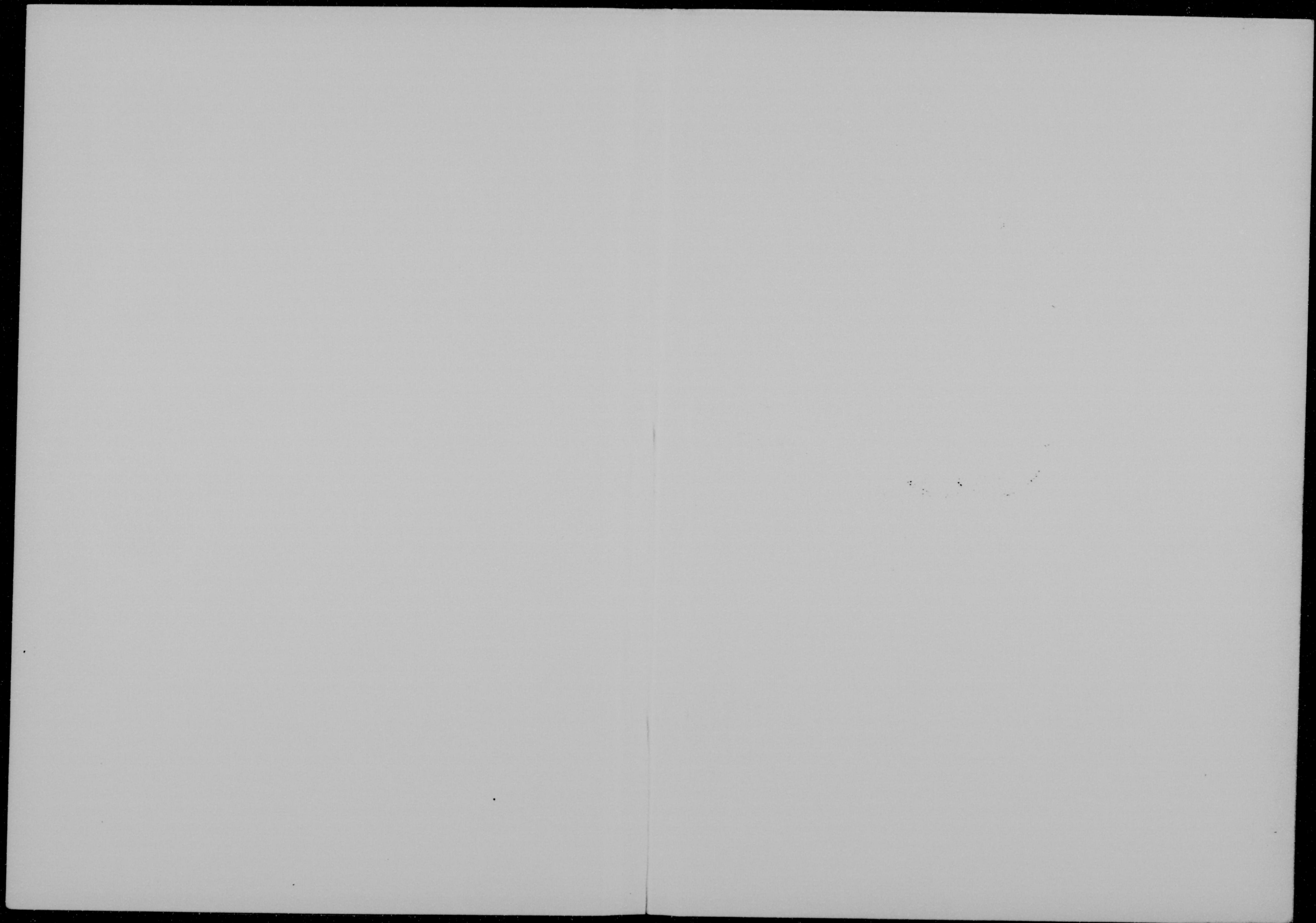
防空関係法規集

京都市防衛部防護課・編

京都市

1943. 5

AJH



323423

435
129

昭和十八年三月

防空關係法規集

京
都

市

昭和十八年三月



防空關係法規集

京
都
市



CZ
1667
71



391.38

80W01244

目次

〇一般

防空法施行期日ニ關スル件	法	律	一
防空法施行令	勅	令	一〇
防空法施行規則	內務省令	三	三
防空法施行細則	京都府令	三	三
防空法令取扱手續	京都府令	三	三
防空從事者扶助令	勅	令	三
防空廳防空令	勅	令	四
燈火管制規則	內務、陸軍、海軍省令	四	四
燈火管制規則施行細則	遞信、鐵道省令	四	四
燈火管制規則施行細則取扱手續	京都府訓令	六	六
燈火管制規則第四條ニ依ル屋外燈管制ノ件	京都府告示	七	七

○防空監視

防空監視隊令(勅)令

三

○防空通信

防空通信規則(逕信省令)

四

○防空警報

訓練防空警報規則(內務省令)

七

防空警報類似音響取締規則(京都府令)

七

防空警報類似音響取締規則第三條ニ依ル音響管制ノ件(京都府告示)

七

○防毒

防毒資材取締規則(內務、厚生省令)

八

內務省告示第四百十七號(內務省告示)

九

防毒資材取締規則施行細則(京都府令)

九

防毒資材取締規則施行細則取扱手續(京都府訓令)

九

○防空建築及防火改修

市街地建築物法(抄)(法律)

九

防空建築規則(內務省令)

九

防火改修規則(內務省令)

一〇

防火改修規則施行細則(京都府令)

一〇

京都市防火改修補助規程(京都市告示)

一三

耐火木材取締規則(內務省令)

一五

○自衛防空

京都市家庭防空要務規程(京都市告示)

一九

京都市家庭防空指導委員會規程(京都市訓令)

二五

京都市防火用水設備助成內規

二六

○警防團

警防團令施行細則(勅)令

三一

警防團令施行細則(京都府令)

三一

警防團令施行細則取扱手續(京都府訓令)

三九

京都府警防團員服務紀律(京都府訓令)

四七

○戰時災害保護

戰時災害保護法(法律)

四九

戰時災害保護法施行令 (勅令).....	一九
戰時災害保護法施行規則 (厚生省令).....	二〇六
戰時災害保護法施行細則 (京都府令).....	二一四
戰時災害保護法施行期日ノ件 (勅令).....	二六四

〇一 般

防 空 法

(昭和十二年四月五日法律第四十七號
昭和十六年十一月二十五日改正法律第九十一號)

第一條 本法ニ於テ防空ト稱スルハ戰時又ハ事變ニ際シ航空機ノ來襲ニ因リ生ズベキ危害ヲ防止シ又ハ之ニ因ル被害ヲ輕減スル爲陸海軍ノ行フ防衛ニ即應シテ陸海軍以外ノ者ノ行フ燈火管制、偽裝、消防、防火、防彈、防毒、避難、救護及應急復舊竝ニ此等ニ關シ必要ナル監視、通信及警報ヲ、防空計畫ト稱スルハ防空ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル計畫ヲ謂フ

第二條 防空計畫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣、地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム以下之ニ同ジ)又ハ地方長官ノ指定スル市町村長之ヲ設定スベシ

第三條 主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ防空上重要ナル事業又ハ施設ニ付行政廳ニ非ザル者ヲ指定シテ防空計畫ヲ設定セシムルコトヲ得

前項ノ防空計畫ハ行政官廳ノ認可ヲ受クベシ

第四條 防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計畫ニ基キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲スベシ

第五條

主務大臣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ防空計畫ニ基キ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ヲシテ防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條ノ二

地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ防空計畫ニ基キ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ヲシテ防空ノ實施ニ際シ必要ナル設備又ハ資材ヲ供用セシムルコトヲ得

第五條ノ三

地方長官防空上必要アルトキハ一定ノ區域ヲ指定シ其ノ區域内ニ於ケル木造建築物ノ所有者ニ對シ期限ヲ附シテ其ノ建築物ノ防火改修ヲ命ズルコトヲ得

第五條ノ四

前項ノ木造建築物ノ範圍竝ニ防火改修ノ程度及方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條ノ五

前條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタル場合ニ於テ期限内ニ工事完了セザルトキ若ハ工事完了ノ見込ナシト認メラルトキ又ハ建築物ノ所有者ノ申請アリタルトキハ地方長官ハ市町村長ヲシテ建築物ノ所有者ニ代リテ前條ノ防火改修ノ工事ヲ施行セシムルコトヲ得

第五條ノ六

主務大臣ハ防空上空地ヲ設クル爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ノ建築ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第五條ノ七

主務大臣ハ防空上空地ヲ設クル爲必要アルトキハ命令ヲ以テ定ムル物件ノ管理者又ハ所有者ニ對シ其ノ物件ノ移轉ヲ命ズルコトヲ得

第五條ノ八

地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ防空ノ實施ニ關スル特別ノ教育訓練ヲ受ケタル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第六條

地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ防空ノ實施ニ關スル特別ノ教育訓練ヲ受ケタル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第六條ノ二

地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ防空ノ實施ニ關スル特別ノ教育訓練ヲ受ケタル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第七條

地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ防空ノ實施ニ關スル特別ノ教育訓練ヲ受ケタル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第八條

地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ防空ノ實施ニ關スル特別ノ教育訓練ヲ受ケタル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得

第八條ノ二

地方長官ハ監視、警報傳達其ノ他防空ノ實施上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依

第八條ノ三

主務大臣ハ防空上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ區域内ニ居住スル者

第八條ノ四

主務大臣ハ防空ノ實施ニ際シ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ鐵道、軌道、航

第八條ノ五

空襲ニ因リ建築物ニ火災ノ危険ヲ生ジタルトキハ其ノ管理者、所有者、居住者其ノ

第九條

防空ノ實施ニ際シ緊急ノ必要アルトキハ地方長官又ハ市町村長ハ他人ノ土地若ハ家屋ヲ

一時使用シ、物件ヲ收容若ハ使用シ又ハ防空ノ實施區域内ニ在ル者ヲシテ防空ノ實施ニ從事セ

第十條

主務大臣ハ防空計畫ノ設定者ニ對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防空ノ訓練ヲ爲スベ

第十條

主務大臣ハ防空計畫ノ設定者ニ對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防空ノ訓練ヲ爲スベ

第十條

主務大臣ハ防空計畫ノ設定者ニ對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防空ノ訓練ヲ爲スベ

第十條ノ二

防空計畫ノ設定者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ防空ノ實施ニ從事スベキ者ヲシテ防空上

必要ナル事項ニ關スル講習ヲ受ケシムルコトヲ得

第十一條

防空ニ關スル調査ノ爲必要アルトキハ行政官廳又ハ市町村長ハ命令ノ定ムル所ニ依リ

關係者ニ對シ資料ノ提出ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ關係アル場所ニ立入り検査ヲ爲サシム

ルコトヲ得但シ私人ノ邸宅竝ニ業務上ノ秘密ニ屬スル事項及設備ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ立入ル場合ニ於テハ其ノ旨豫メ其ノ場所ノ管理者ニ通知スベシ

第十二條

行政官廳、市町村長又ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者ノ爲ス防空ノ實

施ニ従事スル者之ガ爲傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ行政官廳又ハ第三

條第一項ノ規定ニ依リ防空計畫ノ設定者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ扶助金ヲ給スベシ

第八條ノ五ノ規定ニ依リ應急防火ヲ爲シ又ハ之ニ協力スル者之ガ爲傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又

第十三條

地方長官第五條第二項(第十條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ防空ノ

實施又ハ訓練ニ際シ必要ナル設備若ハ資材ヲ供用セシメ又ハ地方長官若ハ市町村長第九條第一

項ノ規定ニ依リ土地家屋物件ヲ收容若ハ使用スル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ損失

ヲ補償スベシ

地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第五條ノ四ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限アリタルガ爲又ハ第五條ノ五ノ規定ニ依ル區域若ハ地區ノ指定アリタルガ爲既ニ著手シタル建築ヲ廢止シ又ハ變更スルノ已ムナキニ至リタルニ因リ生ジタル損失ヲ補償スベシ
前三項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クベキ者補償ニ付不服アルトキハ其ノ金額ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ、供用、收容、使用、除却、改築、廢止、變更其ノ他ノ措置ノ後六月ヲ經過シテ補償金額ノ決定ノ通知ヲ受ケザルトキハ其ノ期間經過シタル日ヨリ六月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條 第六條(第十條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依リ特殊技能ヲ有スル者、特別ノ教育訓練ヲ受ケタル者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ從業者ヲシテ防空ノ實施又ハ訓練ニ從事セシムル場合ニ於テハ地方長官、市町村長又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ實費ヲ辨償スベシ
前條第四項ノ規定ハ前項ノ實費辨償ニ之ヲ準用ス

第十五條 防空計畫ノ設定、防空ノ實施、防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備又ハ第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練ヲ爲スニ要スル費用ハ地方長官之ヲ爲ス場合ニ於テハ北海道又ハ府縣、市町村長之ヲ爲ス場合ニ於テハ市町村、第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者之ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ者ノ負擔トス但シ監視及之ニ伴フ通信ニ付テハ其ノ實施、實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備又ハ第十條第一項ノ規定ニ依ル訓練ニ要スル費用ハ國庫ノ負擔トス

特殊施設ノ管理者又ハ所有者第五條第一項ノ規定ニ依リ設備又ハ資材ノ整備ヲ爲スニ要スル費用ハ其ノ者ノ負擔トス

第五條ノ二又ハ第五條ノ三ノ規定ニ依ル防火改修工事ノ施行ニ要スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築物ノ所有者ノ負擔トス

物件ノ管理者又ハ所有者第五條ノ七ノ規定ニ依リ物件ノ移轉ヲ爲スニ要スル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ者ノ負擔トス

第十二條第一項ノ規定ニ依ル扶助金ヲ給スルニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ給スル場合ニ於テハ國庫、第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者之ヲ給スル場合ニ於テハ其ノ者ノ負擔トス

第十二條第二項ノ規定ニ依ル扶助金ヲ給スルニ要スル費用ハ市町村ノ負擔トス
第十三條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依ル損失補償ヲ爲スニ要スル費用ハ北海道又ハ府縣ノ負擔トス

特別ノ事情アルモノニ付テハ第一項、第二項及第五項ノ規定ニ對シ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十六條 前條第三項ノ規定ニ依リ建築物ノ所有者ノ負擔スル費用ニ對シテハ市町村ハ其ノ三分ノ二以内ヲ補助スベシ

前條第四項ノ規定ニ依リ物件ノ管理者又ハ所有者ノ負擔スル費用ニ對シテハ北海道又ハ府縣ハ其ノ二分ノ一以内ヲ補助スベシ

第十七條 國庫ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ左ノ諸費ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ補助ス

- 一 第十五條第一項ノ規定ニ依リ北海道、府縣、市町村又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ負擔スル費用
 - 二 第十五條第二項ノ規定ニ依リ特殊施設ノ管理者又ハ所有者ノ負擔スル費用
 - 三 第十五條第五項又ハ第六項ノ規定ニ依リ第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者又ハ市町村ノ負擔スル扶助金
 - 四 第十五條第七項ノ規定ニ依リ北海道又ハ府縣ノ負擔スル損失補償金
 - 五 前條ノ規定ニ依リ北海道、府縣又ハ市町村ノ負擔スル補助金
- 第十七條ノ二 第五條ノ三ノ規定ニ依リ市町村長ノ施行スル防火改修工事ニ要スル費用ハ市町村費ヲ以テ一時繰替支辨スベシ
- 前項ノ規定ニ依リ繰替支辨シタル費用ノ辨償金ノ徵收ニ付テハ市町村稅徵收ノ例ニ依ル
- 前項ノ辨償金ニシテ辨償ヲ得ザルモノアルトキハ國庫ハ市町村ニ對シ其ノ損失ノ二分ノ一ヲ補償ス
- 第十八條 防空ノ實施ニ從事スル者ノ業務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス威力又ハ偽計ヲ用ヒ其ノ業務ヲ妨害シタル者亦同ジ
- 第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第六條ノ二第一項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者
 - 二 第八條ノ規定ニ違反シタル者又ハ同條ノ規定ニ依ル光ノ秘匿ヲ妨害シタル者

- 第十九條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第五條ノ三ノ規定ニ依ル防火改修工事ノ施行ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者
 - 二 第五條ノ四ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ニ違反シ又ハ同條ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者
 - 三 第五條ノ五又ハ第八條ノ二乃至第八條ノ四ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタル者
 - 四 第五條ノ六、第五條ノ七又ハ第六條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハザル者
- 第十九條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第八條ノ五第一項ノ規定ニ違反シタル者
 - 二 第十一條第一項ノ規定ニ依ル資料ノ提出ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ資料ヲ提出シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ立入検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者
- 第十九條ノ四 本法ニ規定スル主務大臣ノ職權ノ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ地方官廳ニ委任スルコトヲ得
- 第二十條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス
- 町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本法中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス
- 第二十一條 國ニ於テ管理スル施設ニ關スル防空ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二十二條 本法ヲ朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ施行スル場合ニ於テ必要アルトキハ勅令ヲ以テ特別ノ定ヲ爲スコトヲ得

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十二年勅令第五百四十八號ヲ以テ昭和十二年十月一日ヨリ施行)

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和十六年法律第九十一號) (昭和十六年勅令第千三百三十四號ヲ以テ昭和十六年十二月二十日ヨリ施行)

防空法施行令

(昭和十二年九月二十九日勅令第五百四十九號) (昭和十六年十二月十六日改正勅令第千三百三十五號)

第一條 主務大臣ハ全國又ハ數道府縣ノ區域ニ互リ計畫スベキ事項其ノ他重要ト認ムル事項ニ關シ防空計畫ヲ設定スベシ

陸軍大臣及海軍大臣ハ陸海軍ノ行フ防衛ニ即應セシムル爲防空計畫ノ設定上基準ト爲ルベキ事項ヲ定メ之ヲ主務大臣ニ提示スベシ

內務大臣ハ防空計畫ノ設定上必要ナル事項ヲ他ノ主務大臣ニ提示スベシ

第一條ノ二 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監ヲ含ム以下之ニ同ジ)ハ道府縣ノ全區域又ハ數市町村ノ區域ニ互リ計畫スベキ事項其ノ他必要ト認ムル事項ニ關シ防空計畫ヲ設定スベシ

前項ノ防空計畫ハ內務大臣ノ認可ヲ受クベシ
防空法第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市町村長ハ市町村ノ區域内ニ於テ計畫スベキ事項其ノ他必要ト認ムル事項ニ關シ防空計畫ヲ設定スベシ

前項ノ防空計畫ハ地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第二條 防空法第三條第一項ノ事業又ハ施設ハ工場、鑛山、鐵道、軌道、水道又ハ電氣、瓦斯、石油、電氣通信、海運若ハ航空ニ關スル事業若ハ施設トス

第三條 防空法第五條第一項ノ規定ニ依リ整備ヲ爲サシムルコトヲ得ベキ設備又ハ資材ハ左ノ各號ニ掲グルモノトス

一 電氣工作物、工場、鑛山、鐵道、軌道、電氣通信施設、診療所、船舶ノ類ニ付テハ燈火管制ニ關シ必要ナルモノ

二 水道、下水道、電氣工作物、瓦斯工作物、右油タンク、工場、鑛山、鐵道、軌道、電氣通信施設、道路、橋梁、港灣、堰堤、堤防、水門、倉庫、學校、診療所、高層建築物、飛行場ノ類ニ付テハ偽裝、防彈又ハ應急復舊ニ關シ必要ナルモノ

三 水道、下水道、電氣工作物、瓦斯工作物、石油タンク、工場、鑛山、電氣通信施設、學校、診療所ノ類ニ付テハ消防又ハ防火ニ關シ必要ナルモノ

四 劇場、學校、診療所、百貨店、高層建築物、地下ニ敷設シタル鐵道又ハ軌道、地下室ヲ有スル建築物ノ類ニ付テハ防毒、避難又ハ救護ニ關シ必要ナルモノ

防空法第五條第二項ノ規定ニ依リ供用セシムルコトヲ得ベキ設備又ハ資材ハ左ノ各號ニ掲グルモノトス

一 高層建築物、船舶、電氣通信施設ノ類ニ付テハ監視又ハ通信ニ關シ必要ナルモノ
二 號報器ヲ有スル施設ニ付テハ警報ニ關シ必要ナルモノ

三 學校、寺院、集會場、劇場、診療所、浴場、百貨店、高層建築物、地下ニ敷設シタル鐵道、又ハ軌道、地下室ヲ有スル建築物、避難上有效ナル空地ヲ有スル工場其他ノ建築物、公園、運動場ノ類ニ付テハ防毒、避難又ハ救護ニ關シ必要ナルモノ

第三條ノ二 防空法第五條ノ七ノ物件ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 爆發性、發火性又ハ引火性ノ物品
- 二 有毒性ノ物品
- 三 食糧、燃料其ノ他重要ナル總動員物資
- 四 前各號ニ掲グルモノノ外命令ヲ以テ定ムル物

第四條 防空法第六條第一項ノ特殊技能ヲ有スル者ハ左ノ各號ニ掲グル者トス

- 一 醫師、齒科醫師、獸醫師、藥劑師、產婆、保健婦及看護婦
 - 二 前號ニ掲グルモノノ外内務大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官ノ定ムル者
- 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ從業者ニシテ同法第六條第三項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事スベキモノ其ノ他正當ノ事由アル者ハ同法第六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ從事セシムルコトヲ得ズ

第四條ノ二 防空法第六條第一項若ハ第二項(同法第十條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ依ル命令又ハ同法第六條ノ二ノ規定ニ依ル指定若ハ命令ハ此等ノ處分ヲ受クベキ者ノ居住及就業ノ場所、職業、技能又ハ教育訓練ノ程度、身體ノ狀態、家庭ノ狀況等ヲ斟酌シテ之ヲ爲スベシ

第四條ノ三 地方長官ハ特殊技能ヲ有スル者又ハ特別ノ教育訓練ヲ受ケタル者ニシテ當該道府縣ノ區域内ニ居住スルモノニ對シ防空法第六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ地方長官、市町村長又ハ同法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ爲ス防空ノ實施ニ從事スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ規定ハ防空法第十條ノ規定ニ依リ防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第四條ノ四 防空法第六條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル命令又ハ同法第六條ノ二ノ規定ニ依ル指定ハ從事令書又ハ指定書ノ交付ヲ以テ之ヲ行フ

前項ノ從事令書又ハ指定書ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 防空ノ實施ノ開始及終止ハ内務大臣(航海中ノ船舶ニ付テハ遞信大臣)之ヲ命ズ

前項ノ命令ハ關係アル地方長官ニ對シテハ内務大臣、航海中ノ船舶ニ對シテハ遞信大臣、關係アル市町村長及防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ニ對シテハ内務大臣ノ通知ニ依リ地方長官之ヲ發ス

内務大臣又ハ遞信大臣第一項ノ命令ヲ爲スニ付テハ其ノ時期及區域ニ關シテハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ通知ニ依ルベシ

第六條 前條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ開始命令アリタルトキハ監視及之ニ伴フ通信ハ直ニ之ヲ實施シ防空上必要ナル其ノ他ノ事項ハ直ニ之ヲ準備シ適宜之ヲ實施スベシ

監視及之ニ伴フ通信ハ前條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ終止命令アル迄之ヲ繼續スベシ

第七條 防空ヲ實施スル場合ニ於テ航空機ノ來襲ニ關シテハ左ノ各號ノ區分ニ依リ防空警報ヲ發

- ス
- 一 警戒警報 航空機ノ來襲ノ虞アル場合
- 二 警戒警報解除 航空機ノ來襲ノ虞ナキニ至リタル場合
- 三 空襲警報 航空機ノ來襲ノ危険アル場合
- 四 空襲警報解除 航空機ノ來襲ノ危険ナキニ至リタル場合

當該區域ノ防衛ヲ擔任スル軍司令官、師團長、要塞司令官、鎮守府司令官若ハ警備府司令官(以下陸海軍司令官ト稱ス)又ハ其ノ指定スル者ノ發スル防空警報ヲ以テ前項ノ防空警報トス

第七條ノ二 内務大臣ハ防空上必要アルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ防空法第八條ノ三ノ規定ニ基キ空襲ニ因ル危害ヲ避クル目的ヲ以テスル退去ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 國民學校(之ニ準スベキ學校ヲ含ム)初等科兒童又ハ年齢七年未滿ノ者
- 二 妊婦、産婦又ハ褥婦
- 三 年齢六十五年ヲ超ユル者、傷病者又ハ不具癱疾者ニシテ防空ノ實施ニ從事スルコト能ハザルモノ
- 四 前各號ニ掲グル者ノ保護ニ缺クベカラザル者

前項第四號ニ掲グル者ノ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

第八條 防空法第十一條第一項ノ關係者ハ同法第五條ノ二若ハ第五條ノ四乃至第五條ノ六ニ掲グル建築物(工事中ノモノヲ含ム)、第二條ニ掲グル事業若ハ施設、第三條ニ掲グル特殊施設又ハ第

三條ノ二ニ掲グル物件ノ管理者又ハ所有者トシ關係アル場所ハ此等ノ者ノ管理又ハ所有スル土地及建物其ノ他ノ工作物トス

防空法第十一條第三項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

第九條 防空法第十三條ノ規定ニ依リ補償スベキ損失ハ通常生ズベキ損失ニ限ル

第十條 防空法第十四條ノ規定ニ依ル實費辨償ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官ノ辨償ニ係ルモノニ在リテハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ地方長官之ヲ定メ市町村長又ハ同法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ辨償ニ係ルモノニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ當該防空計畫ノ設定者之ヲ定ムベシ

第十一條 防空法第五條ノ二又ハ第五條ノ三ノ規定ニ依ル木造建築物ノ防火改修工事ノ施行ニ要スル費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該建築物ノ所有者ノ負擔トス

特定ノ街廓内ニ在ル木造建築物ニシテ所有者ヲ異ニスルモノヲ一群トシテ防火改修工事ヲ施行スル場合ニ於ケル當該工事ノ費用ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該工事ニ因リテ利益ヲ受ケタル建築物ノ所有者ノ負擔トシ其ノ負擔ノ割合及方法ハ防空法第五條ノ二ノ規定ニ依ル工事ニ在リテハ當該所有者間ノ協議ニ依リ同法第五條ノ三ノ規定ニ依ル工事ニ在リテハ地方長官ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ地方長官之ヲ裁定ス

第二項ノ協議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第十二條 防空法第十七條ノ規定ニ依ル國庫補助ハ支出精算額ニ對シ之ヲ爲ス但シ寄附金其ノ他ノ收入アルトキハ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

前項ノ規定ニ依リ交付シタル國庫補助金ハ左ニ掲グル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトヲ得

一 設備又ハ資材ヲ廢棄又ハ變更シ當初ノ目的ヲ達シ得ザルニ至リタルトキ

二 補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

第十三條 主務大臣ハ地方長官又ハ防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ニ對シ、

地方長官ハ同法第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市町村長ニ對シ防空計畫ノ設定上必要ナル事項ヲ指示スベシ

前項ノ指示アリタルトキハ之ニ準據シテ防空計畫ヲ設定スベシ

第十四條 陸海軍司令官ハ監視網構成ノ概要ニ付防空計畫ノ設定上必要ナル事項ヲ地方長官ニ、陸海軍ノ行フ防衛ノ必要上使用ヲ禁止又ハ制限スルコトアルベキ土地建物ニ付防空計畫ノ設定上必要ナル事項ヲ地方長官、防空法第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタル市町村長又ハ同法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ニ通知スベシ

前項ノ通知アリタルトキハ之ニ準據シテ防空計畫ヲ設定スベシ

第十四條ノ二 防空計畫ヲ設定スル場合ニ於テハ内務大臣以外ノ主務大臣ハ内務大臣ニ、陸海軍ノ行フ防衛ニ即應セシムル爲必要ナル事項ニ關シテハ主務大臣ニ在リテハ陸軍大臣及海軍大臣ニ、地方長官ニ在リテハ陸海軍司令官ニ協議スベシ

第十五條 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ陸海軍ノ行フ防衛ニ即應セシムル爲必要ナル事項ニ關シテハ行政官廳ハ陸海軍司令官ニ協議スベシ

第十六條 左ニ掲グル事項ニ關シテハ主務大臣ハ關係各大臣ニ、行政官廳ハ關係地方官廳ニ協議スベシ

一 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ當該計畫中國ニ於テ管理スル土地家屋物件ノ使用ニ關スル事項

二 防空計畫ノ認可ヲ爲ス場合ニ於テ設備又ハ資材ノ整備又ハ供用ニシテ他ノ法令ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スルモノニ關スル事項

三 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル指定及同條第二項ノ規定ニ依ル認可

四 設備又ハ資材ノ整備又ハ供用ニシテ他ノ法令ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スルモノニ關スル防空法第五條ノ規定ニ依ル命令

五 建築物(工事中ノモノヲ含ム)ノ除却又ハ改築ニシテ他ノ法令ニ依リ認可又ハ許可ヲ要スルモノニ關スル防空法第五條ノ四又ハ第五條ノ六ノ規定ニ依ル命令

六 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ニ對スル同法第十條第一項ノ規定ニ依ル命令

第十六條ノ二 防空ノ實施ニ際シ内務大臣ハ防空ノ實施ニ付必要ナル事項ヲ他ノ主務大臣ニ、陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ防空ノ實施ニ付陸海軍ノ行フ防衛ニ即應セシムル爲必要ナル事項ヲ主務大臣ニ請求スルコトヲ得

緊急ノ必要ニ因リ内務大臣又ハ陸軍大臣若ハ海軍大臣ニ對シ前項ノ措置ヲ稟請スル暇ナキトキハ地方長官ハ防空ノ實施ニ付必要ナル事項ヲ他ノ地方官廳ニ、陸海軍司令官ハ防空ノ實施ニ付

陸海軍ノ行フ防衛ニ即應セシムル爲必要ナル事項ヲ地方官廳ニ請求スルコトヲ得

第十六條ノ三 第十六條ノ四及第十六條ノ五ニ規定スルモノヲ除クノ外防空法及本令ニ規定スル主務大臣ノ職務ハ内務大臣之ヲ行フ

第十六條ノ四 防空法第二條及第五條並ニ本令第一條、第十三條、第十四條ノ二、第十六條第四號及第十六條ノ二ニ規定スル主務大臣ノ職務ニ關シテハ左ノ各號ニ掲グル事項ニ付テハ當該各號ノ定ムル所ニ依ル

- 一 鑛山又ハ石油タンクノ防空ノ實施ニ必要ナル設備又ハ資材ニ關スル事項ニ付テハ商工大臣
- 二 航海中ノ船舶ニ於テ行フ防空ノ實施ニ關スル事項ニ付テハ遞信大臣
- 三 船舶、航路標識、航空機、航空標識、電氣工作物又ハ電氣通信施設ノ防空ノ實施ニ關シテハ之ニ必要ナル設備又ハ資材ニ關スル事項ニ付テハ遞信大臣、應急復舊ノ實施ニ付テハ内務大臣及遞信大臣

四 鐵道ノ防空ノ實施ニ必要ナル設備又ハ資材ニ關スル事項ニ付テハ鐵道大臣、軌道ノ防空ノ實施ニ必要ナル設備又ハ資材ニ關スル事項及鐵道又ハ軌道ノ應急復舊ノ實施ニ付テハ内務大臣及鐵道大臣

第十六條ノ五 防空法第三條第一項及本令第十六條第三號前段ニ規定スル主務大臣ノ職務ニ關シテハ左ノ各號ニ掲グル事項ニ付テハ當該各號ノ定ムル所ニ依ル

- 一 鑛山又ハ石油ニ關スル事業若ハ施設ニ付テハ内務大臣及商工大臣
- 二 電氣、電氣通信、海運又ハ航空ニ關スル事業又ハ施設ニ付テハ内務大臣及遞信大臣

三 鐵道又ハ軌道ニ付テハ内務大臣及鐵道大臣

第十六條ノ六 防空法第三條第二項並ニ本令第十五條及第十六條第三號後段ニ規定スル行政官廳ノ職務ハ地方長官之ヲ行フ但シ第十六條ノ四第一號ニ掲グル事項（石油タンクニ關スルモノヲ除ク）ニ付テハ鑛山監督局長、同條第二號ニ掲グル事項ニ付テハ遞信局長、同條第三號ニ掲グル事項ニ付テハ遞信局長（應急復舊ノ實施ニ付テハ地方長官及遞信局長）、同條第四號ニ掲グル事項ニ付テハ鐵道局長（軌道ノ防空ノ設備若ハ資材ニ關スル事項又ハ鐵道若ハ軌道ノ應急復舊ノ實施ニ付テハ地方長官及鐵道局長）之ヲ行フ

防空法第十一條ニ規定スル行政官廳ノ職務ハ内務大臣、陸軍大臣、海軍大臣、商工大臣、遞信大臣、鐵道大臣、地方長官、鑛山監督局長、遞信局長又ハ鐵道局長之ヲ行フ

第十六條ノ七 防空法第五條ノ二、第五條ノ三、第五條ノ六、第五條ノ七、第八條ノ二及本令第十一條中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス

第十七條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ防空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式)

表 面

日本標準規格第九十二號B列八番(64mm×91mm)

110

第 號

年 月 日 交付

防空法第十一條第三項ノ規定ニ依ル證票

行政官廳
又ハ市町村 印

官 職 氏 名

表 面

防空法摘要

第十一條 防空ニ關スル調査ノ爲必要アルトキハ行政官廳又ハ市町村長ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ關係者ニ對シ資料ノ提出ヲ命ジ又ハ官吏若ハ吏員ヲシテ關係アル場所ニ立入り検査ヲ爲サシムルコトヲ得但シ私人ノ邸宅並ニ業務上ノ秘密ニ屬スル事項及設備ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ立入ル場合ニ於テハ其ノ旨豫メ其ノ場所ノ管理者ニ通知スベシ

當該官吏又ハ吏員第一項ノ規定ニ依リ關係アル場所ニ立入ル場合ハ其ノ證票ヲ携帯スベシ

第十九條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ五第一項ノ規定ニ違反シタル者

二 第十一條第一項ノ規定ニ依ル資料ノ提出ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ資料ヲ提出シ又ハ當該官吏若ハ吏員ノ立入検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

防空法施行令摘要

第八條 防空法第十一條第一項ノ關係者ハ同法第五條ノ二若ハ第五條ノ四乃至第五條ノ六ニ掲グル建築物(工事中ノモノヲ含ム)、第二條ニ掲グル事業若ハ施設、第三條ニ掲グル特殊施設又ハ第三條ノ二ニ掲グル物件ノ管理者又ハ所有者トシ關係アル場所ハ此等ノ者ノ管理又ハ所有スル土地及建物其ノ他ノ工作物トス

防空法第十一條第三項ノ證票ハ別記様式ニ依ル

第十六條ノ六第二項 防空法第十一條ニ規定スル行政官廳ノ職務ハ内務大臣、陸軍大臣、海軍大臣、商工大臣、逓信大臣、鐵道大臣、地方長官、鑛山監督局長、逓信局長又ハ鐵道局長之ヲ行フ

防空法施行規則

(昭和十六年十二月十八日內務省令第三十九號
昭和十八年三月三十日改正內務省令第二十三號
昭和十八年四月二十八日改正內務省令第二十九號)

二二

- 第一條 防空法第五條ノ四ノ建築物ハ左ノ各號ニ掲グルモノトス
- 一 市街地建築物法施行令第三條第四號ニ掲グル物品ノ製造、貯藏又ハ處理ニ供スル建築物ニシテ建築面積三十平方米以上又ハ同一敷地内ノ建築面積ノ合計二百平方米以上ノモノ
 - 二 前號ニ掲グルモノノ外地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)空襲ニ因ル危害ヲ著シク増大スルノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル建築物
- 前項ノ建築物ヲ新築、(改築及再築ヲ含ム以下同ジ)増築、又ハ移轉セントスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ地方長官ノ指定シタル區域内ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第二條 防空法第五條ノ四ノ規定ニ依ル前條第一項ノ建築物(工事中ノモノヲ含ム)ノ除却、改築其ノ他防空上必要ナル措置ノ命令ハ地方長官ヲシテ之ヲ爲サシムルモノトス
- 第三條 防空法第五條ノ五第一項ノ規定ニ依リ內務大臣ノ指定スル區域内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ヲ新築又ハ増築セントスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ
- 一 建築面積ノ合計二千平方米ヲ超過スル工場
 - 二 常時使用スル原動機馬力數ノ合計二百ヲ超過スル工場
- 前項ノ區域内ニ於テ特ニ內務大臣ノ指定スル區域ニ付テハ前項ノ規定ハ左ノ各號ニ掲グル建築物ニ之ヲ適用ス
- 一 建築面積ノ合計六百平方米ヲ超過スル工場

二 常時使用スル原動機馬力數ノ合計五十ヲ超過スル工場

第四條

防空法第五條ノ五第二項ノ規定ニ依リ內務大臣ノ指定スル地區内ニ於テハ建築物ハ左ノ各號ニ掲グルモノヲ除クノ外之ヲ新築又ハ増築スルコトヲ得ズ

一 農業、林業又ハ畜産業ヲ營ム者ノ業務又ハ居住ノ用途ニ供スル建築物

二 公園、運動場ノ類ノ施設ニ附隨スル建築物

三 防空上必要ナル施設ノ用途ニ供スル建築物

四 前各號ニ掲グルモノノ外防空上空地ノ效用ヲ害スル虞ナシト認メラルル建築物

前項各號ニ掲グル建築物ヲ新築又ハ増築セントスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ地方長官ニ於テ別段ノ定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 第一條第二項、第三條又ハ前條ノ規定ニ適用ニ付テハ新ニ建築物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ヲ他ノ用途ニ變更スルトキハ其ノ用途ニ供スル建築物ヲ新築スルモノト看做ス

第六條 第一條第二項、第三條又ハ第四條第二項ノ規定ニ依リ許可ノ申請ニ關シ必要ナル事項ハ地方長官之ヲ定ム

第七條 地方長官防空法第六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ內務大臣ノ定ムル學校ノ學生生徒ヲ防空ノ實施ニ從事セシムル場合ニ於テハ豫メ當該學校長ノ意見ヲ徵スベシ

第八條 防空法施行令第四條ノ四ノ規定ニ依リ從事令書又ハ指定書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

一 命令又ハ指定ヲ受クベキ者ノ氏名、出生ノ年月日及居住ノ場所

二三

- 二 従事スベキ防空業務及場所
- 三 従事スベキ期間
- 四 其ノ他必要ト認ムル事項

第九條 防空法第八條ノ二ノ規定ニ依リ地方長官ハ左ノ各號ニ掲グル音響ヲ發スル設備又ハ装置ノ使用ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

- 一 空襲警報、空襲警報解除又ハ警戒警報ノ信號ニ類似スル音響
- 二 航空機ノ爆音ニ類似スル音響
- 三 監視ヲ著シク妨害スル虞アル音響
- 四 前各號ニ掲グルモノノ外防空ノ實施上禁止又ハ制限スル必要アリト認ムル音響

第十條 防空ノ實施ニ際シ緊急ノ必要アルトキハ地方長官ハ防空法第八條ノ四ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ヲ爲スコトヲ得

第十一條 防空法第八條ノ四ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ハ地域、期間、移動ノ方法等ヲ定メ之ヲ爲スモノトス

第十二條 左ノ各號ニ掲グル者ニシテ當該建築物ニ付空襲ニ因ル火災ノ危険ヲ生ジタル現場ニ在ルモノハ防空法第八條ノ五第一項ノ規定ニ依ル應急防火ヲ爲スベシ

- 一 建築物ノ管理者、所有者又ハ居住者
 - 二 建築物内ニ勤務、就業又ハ修業ノ場所ヲ有スル者
- 防空法施行令第七條ノ二第一項各號ニ掲グル者其ノ他正當ノ事由アル者ハ防空法第八條ノ五第

一項ノ規定ニ依ル應急防火又ハ同條第二項ノ規定ニ依ル應急防火ノ協力ヲ爲スコトヲ要セズ

第十三條 防空法第十條ノ二ノ規定ニ依リ講習ヲ受クベキ者ノ範圍、講習ノ期間及内容等ニ關シ必要ナル事項ハ内務大臣之ヲ定ム

第十四條 防空法第十五條第四項ノ規定ニ依リ物件ノ移轉ヲ爲スニ要スル費用ハ物件ノ所有者ノ負擔トス但シ當該物件ノ管理者アルトキハ契約等ニ依リ特別ノ定アル場合ヲ除クノ外所有者及管理者ノ共同ノ負擔トス

附 則

本令ハ昭和十六年法律第九十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

防空法施行細則

(昭和十七年六月十二日
京都府令第四十八號)

第一條 防空法施行規則(以下規則ト稱ス)第一條第二項但書ニ依ル區域ハ市街地建築物法施行區域及與謝郡宮津町ヲ除キタル地域トス

第二條 規則第一條第二項ノ規定ニ依リ知事ノ許可ヲ受ケントスルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書正副二通ヲ提出スベシ

- 一 申請者ノ住所、職業及氏名(法人ニ在リテハ名稱、事務所所在地及代表者ノ氏名)
- 二 設置ノ場所
- 三 製造、貯藏又ハ處理物品ノ種類及最大數量

- 四 建築物又ハ設備ノ構造、仕様書及圖面
 - 五 周圍ノ狀況ヲ示ス圖面(設置ノ場所ヨリ千米以内)
 - 六 作業又ハ處理ノ方法
 - 七 設置ノ目的
 - 八 工事着手及竣功豫定期日
 - 九 請負人アルトキハ其ノ住所、氏名又ハ名稱
- 市街地建築物法、木造建物建築統制規則又ハ鐵鋼工作物築造許可規則ノ適用ヲ受クル建築物ニ在リテハ當該申請書類ニ第一項ノ所事項ヲ記載シテ之ヲ併願スルコトヲ得
- 第三條 規則第一條第一項第一號ニ掲グル建築物ニシテ物品ノ製造、貯藏又ハ處理ノ數量別表第一數量ノ二十分ノ一以上ノモノハ左ノ距離ヲ保有スルニアラザレバ建築スルコトヲ得ズ

皇宮、離宮又ハ御陵ヨリ	保有距離
特ニ重要ナル發電所、堰堤、港灣、水道又ハ瓦斯事業場、飛行場、橋梁、兵營、工場、停車場、中央卸賣市場、電氣通信施設、其ノ他爆撃目標トナルベキ重要施設ヨリ	一、〇〇〇米以上
別構ノ危險物製造所、貯藏所、處理場ヨリ	三〇〇米以上
社寺、學校、病院、劇場、百貨店、其ノ他多衆ヲ收容スル建築物、公園、運動場ノ類、重要ナル道路、鐵道、軌道ヨリ	一〇〇米以上
敷地境界線ヨリ	五〇米以上
同一敷地間ノ他ノ建築物ヨリ	二五米以上

危險物品ヲ貯藏スルモノニシテ之ヲ地下槽(地下室又ハ地下施設ヲ含ム)ト爲ス場合ハ前項ノ距離ハ各々二分ノ一トナスコトヲ得但シ別表第一數量未滿ノモノハ保有距離ヲ要セズ

危險物ノ種類、建築物ノ構造設備、其ノ他周圍ノ狀況等ニ依リ支障無シト認め又ハ己ムヲ得ズト認ムルトキハ第一項ノ制限ヲ輕減スルコトアルベシ

第四條 京都市及東舞鶴市ニ在リテハ規則第一條第一項第一號ニ該當スル建築物ハ其ノ一建築物ノ製造、貯藏又ハ處理スル危險物ノ數量ガ別表第一數量ヲ超ユル場合若ハ同一敷地内ニ在ル數建築物ノ製造、貯藏又ハ處理スル數量ノ合計ガ別表第二數量ヲ超ユル場合ハ之ヲ建築スルコトヲ得ズ別表ノ數量ニ滿タザル危險物二種以上ニ亘ル場合ニ於テ各種類毎ニ別表ニ定ムル數量ヲ以テ製造、貯藏又ハ處理スル數量ヲ除シ其ノ商ノ和ガ一ヲ超ユルトキ亦同シ但シ特別ノ事由アリト認めタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 規則第一條第一項ノ建築物ハ左ノ構造ト爲スベシ

- 一 平家建トナスコト
- 二 別表甲ニ屬スル物品ヲ貯藏、處理ニ供スル場合ハ建築物ノ建築面積ハ六十平方メートル以下トシ乙ニ屬スル物品ヲ取扱フ場合ハ二百平方メートル以下トスルコト
- 三 製造ノ用ニ供スル場合ハ一建築物ノ建築面積ハ六百平方メートル以下トスルコト
- 四 外壁、床又ハ隔壁ハ耐火構造トナスコト
- 五 屋根ハ耐火構造トナスコト但シ爆發ノ虞アル不安定ナル物品ヲ取扱フ場合ハ特ニ輕量ナル不燃材料(金屬板ヲ除ク)トナスコト

- 六 窓出入口ノ開口部ハ内部ニ網入不透明硝子戸ヲ、外部ニ甲種防火戸ヲ設クルコト
 - 七 有效ナル避雷設備ヲナスコト
 - 八 地上槽ニ在リテハ貯藏容量ニ等シキ漏油ヲ收容シ得ベキ防油壁ヲ設クルコト
 - 九 地下槽(地下室又ハ地下施設ヲ含ム)ニ在リテハ覆土厚サヲ一米以上トナスコト
- 危険物ノ製造又ハ處理ニ供スル建築物若ハ別表乙ニ屬スル物品ヲ貯藏スル建築物ニシテ危険物ノ種類、數量又ハ周圍ノ狀況等ニ依リ防空上特ニ支障ナシト認ムルトキハ前項ノ制限ヲ輕減シ又ハ免除スルコトアルベシ

第六條 規則第三條第一項ノ規定ニ依リ知事ノ許可ヲ受ケントスルモノハ左ノ事項ヲ具シタル申請書ヲ正副二通提出スベシ

- 一 申請者ノ住所及氏名(法人ニ在リテハ住所、名稱及代表者ノ氏名)
- 二 工場名及位置、事業ノ種別
- 三 新築(又ハ用途變更)、増築(又ハ馬力數ノ増加)ノ別
- 四 建築面積、床面積及敷地面積(作業場、事務所、寄宿舎等ノ別ニ記スコト増築ノ場合ハ従前ノモノトノ合計ヲモ記スコト)
- 五 原動機ノ種類及馬力數(馬力ノ増加アル場合ハ従前ノモノトノ合計ヲモ記スコト)
- 六 従業員數(従業員數ノ増加アル場合ハ従前ノモノトノ合計ヲモ記スコト)
- 七 所要資金ノ額(敷地費、建築費、設備費等ノ内譯ニ依ルコト)
- 八 新築又ハ増築ノ理由

九 起工及竣工ノ豫定期日

一〇 關係法令ニ依ル許可認可等申請ノ情況
前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

- 一 工場内建築物配置圖
 - 二 工場附近現況圖
 - 三 申請者ノ事業ノ大要ヲ知ルニ足ル書類
- 前二項ノ外知事ニ於テ必要ト認ムル書類ハ之ヲ提出セシムルコトアルベシ
- 第七條 第二條第一項及前條第一項ノ申請ニシテ支障ナシト認ムルトキハ副本ニ第一號様式ノ建築許可證印ヲ押捺シテ申請者ニ交付ス
- 第八條 建築物竣工シタルトキハ竣工届正副二通ヲ提出スベシ
- 第二條第二項ノ建築物ニ在リテハ當該法令ニ依ル竣工届二通ヲ提出シテ前項ノ竣工届ニ代フルコトヲ得
- 竣工検査ニ合格シタルトキハ副本ニ第二號様式ノ建築物竣工検査済證印ヲ押捺シテ申請者ニ交付ス
- 第三項建築物ハ前項ノ竣工検査済證ヲ受クルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ
- 第九條 規則第一條第二項及第三條第一項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケタル日ヨリ六月以内ニ起工セザルトキ又ハ竣工豫定期日ヲ經過スルコト一年ニシテ仍竣工セザルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ特別ノ事由アルモノニシテ期限内ニ延期ノ手續ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 工事中ハ工事場ニ第七條ノ建築許可證印アル副本ヲ備ヘ置キ當該官吏又ハ吏員ノ要求アリタルトキハ之ヲ提示スベシ

第十一條 本令ニ依リ知事ニ提出スベキ書類ハ所轄警察署長ヲ經由スベシ

品名	種屬	第一數量	第二數量
火藥	甲	五、〇〇〇	一五、〇〇〇
爆藥	甲	二、〇〇〇	六、〇〇〇
銃用實包	甲	二、五〇〇、〇〇〇	七、五〇〇、〇〇〇
銃用雷管	甲	五、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇
工業用雷管	甲	六〇〇、〇〇〇	一、二〇〇、〇〇〇
鹽素酸鹽類	甲	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
過鹽素酸鹽類	甲	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
硝酸鹽類	乙	八〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
黃磷	甲	四、〇〇〇	一六、〇〇〇
赤磷	甲	八、〇〇〇	三三、〇〇〇
硫磷	甲	八、〇〇〇	三三、〇〇〇
金屬カリウム	甲	五〇〇	二、〇〇〇
金屬ナトリウム	甲	五〇〇	二、〇〇〇
キシロール	甲	四〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇

ピクリン酸鹽類	甲	四〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
テレピン油	甲	四〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
第一種石油	甲	一六、〇〇〇	六四、〇〇〇
第二種石油	甲	四〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
第三種石油	乙	四〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
燐寸	乙	五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
燐	乙	五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
セルロイド	甲	三〇、〇〇〇	一二〇、〇〇〇
壓縮ガス	甲	三、〇〇〇	一二、〇〇〇
液體ガス	甲	三、〇〇〇	一二、〇〇〇
石炭ガス	甲	一〇〇、〇〇〇	四〇〇、〇〇〇
可燃性ガス	甲	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
カーバイド	乙	五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇
マグネシウム	甲	一、〇〇〇	四、〇〇〇
過酸化水素水	甲	四〇、〇〇〇	一六〇、〇〇〇
過酸化カリ	甲	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
過酸化ソーダ	甲	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
過酸化バリウム	甲	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇
二硫化炭素	甲	八、〇〇〇	三二、〇〇〇

メタノール
アルコール
エーテル
アセトン
醋酸エステル
ニトロセルロース
ベンゾール
トルオール

甲 甲 甲 甲 甲 甲 甲

二〇、〇〇〇〃
四〇、〇〇〇〃
八、〇〇〇〃
四〇、〇〇〇〃
四〇、〇〇〇〃
一、〇〇〇〃
二〇、〇〇〇〃
二〇、〇〇〇〃

八〇、〇〇〇〃
一六〇、〇〇〇〃
三、〇〇〇〃
一六〇、〇〇〇〃
一六〇、〇〇〇〃
四、〇〇〇〃
八〇、〇〇〇〃
八〇、〇〇〇〃

三二

備考

- 一 石油ト稱スルハ原油、原油ノ分溜製品(殘査ヲモ含ム)及其ノ分解製品並ニ天然「ガス」ノ分離製品ニシテ常溫ニ於テ液狀ヲ爲スモノヲ謂フ
「タール」類ノ分溜油、頁岩油、石油液化油及其ノ他之ニ類スル燃料油ハ之ヲ石油ト看做ス
石油ニシテ「アーベル」又ハ「ベンスキー」、マルテンス「閉塞發焔試驗器」用ヒ七六〇耗ノ氣壓ニ於テ攝氏二十一度未滿ノ溫度ニテ發焔スルモノヲ第一種、二十一度以上七十度未滿ニテ發焔スルモノヲ第二種七十度以上ノ溫度ニ達セザレバ發焔セザルモノヲ第三種トス
燐寸一包トハ普通燐寸十個入ヲ謂フ
- 二 「セルロイド」中ニハ「フィルム」ヲ除ク加工品ヲ含マズ
- 三 「アルコール」中ニハ變性「アルコール」ヲ含ム
- 四 可燃性ガストハ石炭ガス以外ノモノニシテ例ヘバ水素ガス、天然ガス、メタンガス等ヲ謂フ
- 五

第一號様式

警防第 號
建築 許 可 證
防空法令ニ依ル
昭和 年 月 日
京 都 府

第二號様式

警防第 號
建築物竣功検査済之證
防空法令ニ依ル
昭和 年 月 日
京 都 府

防空法令取扱手續

(昭和十七年六月十二日
京都府令第二十二號)

- 第一條 防空法施行細則(以下細則ト稱ス)第二條及第六條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ左記事項調査ノ上調査書ヲ作成シ許否ノ意見ヲ附シ速ニ進達スベシ但シ申請ニ關係ナキ部分ノ調査ハ之ヲ省略スルコトヲ得
- 一 申請書ハ所定ノ事項ヲ具備スルヤ
 - 二 細則第三條ノ關係アルモノハ其ノ距離及同條ノ保有距離内ノ狀況
 - 三 其ノ他參考事項

細則第二條第二項ノ場合ニ在リテハ當該申請書ノ副申書ニ前項ノ事項ヲ追申スベシ

第二條 細則第八條ノ竣功届ヲ受理シタルトキハ速ニ進達スベシ

第三條 別記様式ニ依リ建築物臺帳ヲ備ヘ處理ノ都度所定事項ヲ記入整理スベシ

第四條 前條ノ建築物バ時々臨檢ヲ行ヒ防空上危險ノ虞アルモノ又ハ法令ニ違反スルモノアルトキハ速カニ報告スベシ

様式 防空法施行規則 第一條第一項ノ 建築物臺帳

備考	設置ノ目的	作業又ハ處理ノ方法	製造貯藏又ハ處理物品ノ種類及最大數量	設置ノ場所	申請者ノ住所氏名

防空従事者扶助令

(昭和十六年十二月十七日 勅令第千百三十七號)

- 第一條 防空法第十二條ノ規定ニ依ル扶助金ノ支給ハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 扶助金ハ左ニ掲グル防空従事者(恩給法ニ依ル公務員又ハ之ニ準ズベキ者ニシテ職務上防空ノ實施ニ従事スルモノヲ除ク)ニ付之ヲ給ス
- 一 防空監視隊員
 - 二 警防團員
 - 三 防空法第六條第一項又ハ第二項ノ規定ニ基ク地方長官ノ命令ニ依リ防空ノ實施ニ従事スル者
 - 四 防空法第九條第一項ノ規定ニ依リ防空ノ實施ニ従事スル者
 - 五 前二號ニ掲グル者ヲ除クノ外地方長官又ハ市町村長ノ爲ス防空ノ實施ニ従事スル者ニシテ内務大臣ノ指定スルモノ
 - 六 防空法第八條ノ五ノ規定ニ依リ應急防火ヲ爲シ又ハ之ニ協力スル者
 - 七 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ従業者ニシテ其ノ防空計畫ニ基キ防空ノ實施ニ従事スルモノ
- 第三條 扶助金ノ支給者ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル
- 一 前條第一號又ハ第二號ニ掲グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ當該防空監視隊又ハ警防團

- ヲ設置シタル地方長官
 - 二 前條第三號ニ掲グル者ニシテ地方長官又ハ市町村長ノ爲ス防空ノ實施ニ從事スルモノニ付給スル扶助金ニ在リテハ從事令書ヲ發シタル地方長官、防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ爲ス防空ノ實施ニ從事スルモノニ付給スル扶助金ニ在リテハ當該防空計畫ノ設定者
 - 三 前條第四號又ハ第五號ニ掲グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ其ノ者ガ防空ノ實施ニ從事スル地ヲ管轄スル地方長官
 - 四 前條第六號ニ掲グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ其ノ者ノ從事スル應急防火ニ係ル建築物ノ所在市町村ノ市町村長
 - 五 前條第七號ニ掲グル者ニ付給スル扶助金ニ在リテハ當該防空計畫ノ設定者
- 第四條 扶助金ハ療養費、障害扶助金、打切扶助金、遺族扶助金及葬祭費ノ五種トシ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ給ス
- 一 療養費ハ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ療養ヲ要スル者ニシテ官公費ノ治療ヲ受ケザルモノニ之ヲ給ス
 - 二 障害扶助金ハ傷痍又ハ疾病ノ治癒シタル時ニ於テ仍身體ニ障害ヲ存スル者ニ之ヲ給ス
 - 三 打切扶助金ハ療養ノ期間一年ヲ經過スルモ傷痍又ハ疾病ノ治癒セザル者ニ之ヲ給ス
 - 四 遺族扶助金ハ死亡シタル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
 - 五 葬祭費ハ葬祭ヲ行フ遺族ニ之ヲ給ス葬祭ヲ行フ遺族ナキ場合ニ於テハ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ

給スル事ヲ得

打切扶助金ヲ給スベキトキハ以後本令ニ依ル他ノ扶助金ハ之ヲ給セズ
 防空従事者重大ナル過失ニ因リ傷痍ヲ受ケ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テハ障害扶助金又ハ遺族扶助金ハ之ヲ給セザルコトヲ得

第五條

- 一 扶助金ノ額ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル
- 二 地方長官ノ給スルモノニ在リテハ別表第一欄ニ掲グル金額
- 三 防空法第三條第一項ノ規定ニ依ル防空計畫ノ設定者ノ給スルモノニ在リテハ當該支給者ガ別表第一欄ニ掲グル金額ノ範圍内ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ定ムル金額
- 四 市町村長ノ給スルモノニ在リテハ別表第二欄ニ掲グル金額ノ範圍内ニ於テ當該市町村長ガ地方長官ノ認可ヲ受ケ定ムル金額

傷害扶助金又ハ打切扶助金ハ前項ノ規定ニ依ル金額ノ範圍内ニ於テ傷痍疾病ノ程度、身體障害ノ輕重等ノ事情ヲ斟酌シテ之ヲ給スベシ

第六條

防空従事者障害扶助金ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ者ガ傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル日ヨリ起算シ三年以内ニ當該傷痍疾病ノ再發ニ因リ身體障害ノ程度ヲ過重シタルトキハ障害扶助金ノ額ハ新ニ之ヲ定メ既ニ給シタル障害扶助金ノ金額ヲ控除シテ之ヲ給ス

第七條

本令ニ於テ遺族トハ本人ノ配偶者、子、孫、父、母、祖父、祖母及兄弟姉妹ニシテ本人死亡ノ當時ヨリ引續キ之ト同一ノ戸籍内ニ在ル者ヲ謂フ本人ノ死亡後二年以内ニ昭和十五年法律第四號(委託又ハ郵便ニ依ル戸籍届出ニ關スル法律)ノ適用ヲ受ケ本人死亡ノ當時ヨリ引續キ之

ト同一戸籍内ニ在ルコト、爲ルニ至リタル者ニ付亦同ジ
 本人死亡後分家シタル遺族又ハ分家シタル遺族ニ伴ヒ其ノ家ニ入りタル遺族ハ前項ノ規定ノ適
 用ニ付テハ引續キ本人ト同一戸籍内ニ在ルモノト看做ス
 届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ同一戸
 籍内ニ在ル配偶者ト看做ス
 本人死亡當時胎兒タル子又ハ孫出生シタルトキハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ本人死亡ノ當時
 之ト同一戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第八條 遺族扶助金ヲ受クベキ遺族ノ順位ハ前條第一項ニ掲グル順序ニ依ル
 前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子又ハ孫數人アルトキハ本人ヲ被相續人トシタル家督相續ノ順位ニ
 準ジ之ヲ定ム

父母及祖父母ニ付テハ養方ヲ先ニシ實方ヲ後ニス
 兄弟姉妹ニ遺族扶助金ヲ給スルハ其ノ者ガ未成年又ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク
 且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限り前條第一項後段ニ規定スル者ニ遺族扶助金ヲ給スルハ既ニ之
 ヲ受ケタル者ナキ場合ニ限ル

第九條 遺族扶助金ヲ給スベキ順位ニ在ル遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遺族扶助金ハ其ノ
 次順位ニ在ル遺族ニ之ヲ給ス
 一 死亡シタルトキ
 二 所在不明ナルトキ

三 分家ノ場合ヲ除クノ外同一戸籍内ニ在ラザルニ至リタルトキ

第十條 扶助金ヲ受クベキ者ガ扶助金ヲ受クベキ事由ノ生ジタル日ヨリ起算シ二年以内ニ請求ヲ
 爲サザルトキハ當該扶助金ハ之ヲ給セズ

第十一條 扶助金ヲ受クベキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ其ノ金額ハ
 扶助金ノ額ヨリ之ヲ控除ス

第十二條 扶助金ヲ受クベキ者同一ノ原因ニ付他ノ法令ニ依ル扶助、給付又ハ給與ヲ受クベキ場
 合ニ於テ其ノ扶助、給付又ハ給與ガ本令ノ扶助金ト同種ノモノナルトキハ本令ノ扶助金ハ之ヲ
 給セズ但シ其ノ額ガ本令ノ扶助金ノ額ヨリ少額ナルトキハ其ノ差額ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ノ他ノ法令ニ依ル扶助、給付又ハ給與ニシテ本令ノ扶助金ト同種ノモノハ内務大臣之ヲ指
 定ス

附 則

本令ハ昭和十六年法律第九十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

種 別	療 養 費	
	第 一 欄	第 二 欄
障 害 扶 助 金	終身自用ヲ辨ズルコト能ハザルモノ	實 費 1,500 円
	終身業務ニ服スルコト能ハザルモノ	實 費 1,000 円
	其ノ他身體ニ著シキ障害ヲ存スルモノ又ハ女子ニシテ其ノ外貌ニ醜痕ヲ殘シタルモノ	實 費 700 円

打切扶助金	1,500	1,000
遺族扶助金	1,000	700
葬祭費	100	70

官廳防空令

(昭和十二年九月二十九日勅令第五百五十號)
(昭和十六年改正勅令第千三百三十五號)

第一條 本令ニ於テ官廳防空計畫ト稱スルハ國ニ於テ管理スル施設ニ關スル防空ノ實施及之ニ關シ必要ナル設備又ハ資材ノ整備ニ關スル計畫ヲ謂フ

第二條 內閣總理大臣又ハ各省大臣(陸軍大臣及海軍大臣ヲ除ク以下之ニ同ジ)ハ自ラ官廳防空計畫ヲ設定シ又ハ其ノ監督ニ屬スル行政官廳ニシテ必要アリト認ムルモノヲ指定シ官廳防空計畫ヲ設定セシムベシ

內閣總理大臣又ハ各省大臣ノ設定スル官廳防空計畫ハ內務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ニ、其ノ他ノ行政官廳ノ設定スル官廳防空計畫ハ地方長官及防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官ニ協議スベシ

第三條 官廳防空計畫ノ設定者ハ其ノ防空計畫ニ基キ防空ヲ實施シ又ハ防空ノ實施ニ關シ必要ナル設備若ハ資材ノ整備ヲ爲スベシ

第四條 內務大臣ハ防空法施行令第五條ノ規定ニ依リ防空ノ實施ノ開始又ハ終止ヲ命ズルトキハ同時ニ內閣總理大臣及各省大臣ニ其ノ旨通知スベシ

內務大臣前項ノ通知ヲ爲シタルトキ又ハ內閣總理大臣及各省大臣前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ監督ニ屬スル關係アル官廳防空計畫ノ設定者ニ其ノ旨通知スベシ
前二項ノ通知アリタル場合ニ於テ防空ノ實施ノ開始及終止ニ關シテハ防空法施行令第六條ノ規定ヲ準用ス

第五條 國ニ於テ管理スル施設(陸海軍ノ官衙學校ヲ除ク)ニ關スル燈火管制ノ實施及訓練ニ關シテハ防空法第八條及第十條第二項ノ規定並ニ之ニ基キテ發スル命令ノ規定ヲ準用ス但シ之ニ依リ難キ事項ニ關シテハ內閣總理大臣又ハ各省大臣ハ內務大臣、陸軍大臣及海軍大臣ニ協議シ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六條 內閣總理大臣及各省大臣ハ其ノ監督ニ屬スル官廳防空計畫ノ設定者ニ對シ防空計畫ノ全部又ハ一部ニ基キ防空ノ訓練ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

附 則

本令ハ防空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○燈火管制

燈火管制規則

昭和十三年四月四日 陸軍省令第一號
內務省令第一號
海軍省令第一號
鐵道省令第一號
改正昭和十七年第一號

- 第一條 燈火管制ヲ實施シ又ハ其ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ防空法第八條（同法第十條第二項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル光ノ秘匿ハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 燈火管制ハ第四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外警戒管制及空襲管制トス
警戒管制ハ警戒警報又ハ空襲警報解除ノ發セラレタル時ヨリ警戒警報解除又ハ空襲警報ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ
空襲管制ハ空襲警報ノ發セラレタル時ヨリ空襲警報解除ノ發セラルル迄ノ間之ヲ行フ
燈火管制ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於ケル前二項ノ防空警報ハ訓練防空警報トス
- 第三條 警戒管制又ハ空襲管制中ノ光ノ秘匿ハ日没ヨリ日出迄ノ間第一號表乃至第七號表ニ掲グル程度ニ於テ之ヲ爲スベシ
- 第四條 第一號表ノ屋外燈（標識燈類、街路燈類及屋外作業燈類ヲ除ク）ニシテ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ）ノ指定スルモノハ其ノ定ムル期間日没ヨリ日出迄ノ間警戒管制ノ程度ニ依リ其ノ光ヲ秘匿スベシ地方長官前項ノ規定ニ依リ屋外燈ヲ指定シ又ハ其ノ光ヲ

- 秘匿スベキ期間ヲ定メタルトキハ之ヲ告示スベシ
- 第五條 左ノ各號ニ掲グル光ニ付テハ本令ノ制限ヲ適用セズ
一 建築物、車輛、船舶、隧道、地下道等ノ内部ノ光ニシテ外部ニ漏レザルモノ
二 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認め地方長官ノ指定スル光
- 第六條 左ニ掲グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ光ヲ使用スルコトヲ得
一 消防、人命救助等ノ爲緊急ノ必要アルトキ
二 特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ
- 第七條 第一號表乃至第七號表中警戒管制ノ甲ノ程度ヲ適用スベキ區域ハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官（以下陸海軍司令官ト稱ス）ノ通知ニ依リ地方長官之ヲ定メ其ノ他ノ區域ハ乙ノ程度ヲ適用スベキ區域トス
前項ノ規定ニ依リ難キ海上ノ區域ニ付テハ別ニ之ヲ定ム
- 第八條 第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表中ノ許可又ハ指定ハ地方長官之ヲ爲スモノトス
- 第九條 第一號表、第二號表、第四號表乃至第七號表中隱蔽ト稱スルハ開口部其ノ他ニ覆ヲ施シ外部ニ對シ漏光ナカラシムルヲ謂フ
第一號表乃至第五號表中遮光ト稱スルハ光源ニ對シ直接覆ヲ施シ又ハ之ニ準ズル方法ヲ講ジ各表ニ掲グル條件ニ依リ光ヲ遮ルヲ謂フ
第四號表及第五號表中確認距離ト稱スルハ燈火ノ目的ニ應ジ實用ニ適スル程度ニ認識シ得ル最

第六號表 航空關係燈ノ光ノ秘匿ノ程度

計器燈	室內燈	飛行場燈類			航空標識燈類		種別					
		飛行場航空燈	障礙物標識燈	各種風向燈	停止燈	滑走路燈		進場燈	着陸場照明燈	航空燈臺	獨立障礙物標識燈	
平常ノ儘	隱消	消	消	消	消	消	示	乙	警戒	示	主管官廳ニ於テ指	減光
平常ノ儘	隱消	消	消	消	消	消	示	甲	管制	示	主管官廳ニ於テ指	減光
平常ノ儘	隱消	消	消	消	消	消	示	空	襲管制	示	主管官廳ニ於テ指	減光
												減光後ノ光度ハ必要最少限トス

埠頭標識燈類		出札口屋外燈		誘導燈	
燈其ノ他ノ類スル	稅關所標識燈	改札口屋外燈	出札口屋外燈	誘導燈	屋外各種表示燈
五燭光以下トス	一燭光以下トス	減光且遮光	減光且遮光	消	消
ト米以下トスルコ	ト米以下トスルコ	減光且遮光	減光且遮光	消	消
隱消	隱消	消	消	消	消
蔽燈	蔽燈	燈	燈	燈	燈
ル光射源ノコト認メ得ザ	ル光射源ノコト認メ得ザ	ス度且光源ノコト	ス度且光源ノコト	ス度且光源ノコト	ス度且光源ノコト

備考 特別ノ事情ニ因リ必要アリト認メ別ニ告示スル場合ニ於テハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ關シテハ警戒管制ノ場合及空襲管制ノ場合ヲ通ジ警戒管制ノ乙ノ程度ニ依ル

燈火管制規則施行細則

(昭和十三年八月九日
京都府令第四十號)

六四

- 第一條 燈火管制規則(以下規則ト稱ス)第五條第二號ノ規定ニ依リ指定ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ指定ヲ受ケントスル光ノ主タル所在地ノ警察署長ヲ經由シ知事ニ申請スベシ
- 一 申請者ノ住所氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所所在地及代表者ノ氏名)
 - 二 光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ノ住所氏名
 - 三 光ノ所在地又ハ使用區域
 - 四 光ノ種類及個數
 - 五 光ノ程度(光度、照度、光束、火焰ニ在リテハ其ノ大サ其ノ他關係アル事項)
 - 六 光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ概要
 - 七 指定ヲ受ケントスル理由
 - 八 光ノ位置及光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ見取圖
- 知事必要アリト認ムルトキハ前項ノ申請無キ場合ニ於テモ指定スルコトアルベシ
- 前二項ノ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス
- 第二條 規則第六條第一號ノ規定ニ依リ光ヲ使用シタル者ハ速ニ光ノ主タル使用地ノ警察署長ニ左ノ事項ヲ届出ヅベシ
- 一 使用者ノ住所氏名

- 二 使用ノ年月日及使用时间
 - 三 使用ノ場所又ハ區域
 - 四 光ノ種類、個數及程度
 - 五 使用ノ理由
- 第三條 規則第六條第二號ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケントスル者ハ前條各號ノ事項ヲ具シ光ノ主タル使用地ノ警察署長ニ申請スベシ
- 前項ノ申請ハ口頭又ハ電話ヲ以テ爲スコトヲ得
- 前二項ノ申請ニヨリ許可ヲ爲シタルトキハ別記第一號様式ノ許可證ヲ交付ス
- 光ノ使用者ハ前項ノ許可證ヲ携帶シ警察官吏ノ求メアルトキハ之ヲ提示スベシ
- 第四條 規則第八條ノ規定ニ依リ規則第一號表、第二號表、第四號表又ハ第五號表中ノ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ許可ヲ受ケントスル光ノ主タル所在地ノ警察署長ヲ經由シ知事ニ申請スベシ
- 一 申請者ノ住所氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所所在地及代表者ノ氏名)
 - 二 光ヲ發スル設備又ハ裝置ノ管理者又ハ之ニ準ズベキ者ノ住所氏名
 - 三 光ノ所在地又ハ使用區域
 - 四 光ノ種類、燈器ノ種類個數及位置
 - 五 光ノ程度(光度、照度、光束其ノ他關係アル事項)
 - 六 光ノ秘匿設備又ハ裝置ノ概要(隱蔽、遮光、減光又ハ漏光制限ノ方法及其ノ器具、材料其

六五

- ノ他關係アル事項)
 - 七 迅速ニ消燈シ得ル處置ノ要アルモノハ其ノ概要
 - 八 許可ヲ受ケントスル理由
 - 九 光ノ位置及燈器ノ見取圖
- 前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ別記第二號様式ノ許可證ヲ交付ス
- 第五條 規則第八條ノ規定ニ依リ規則第四號表又ハ第五號表中ノ指定ヲ受ケントスルモノハ前條第一號乃至第六號及第九號ノ事項竝ニ指定ヲ受ケントスル理由ヲ具シ光ノ所在地ノ警察署長ヲ經由シ知事ニ申請スベシ
- 前項ノ申請ニヨリ指定ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示ス
- 第六條 燈火管制ノ實施ニ際シ第二條又ハ第三條第四項ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第一號様式

第 號		光ノ使用許可證	
使用ノ目的	使用年月日	使用ノ場所	使用ノ時間
又ハ區域	光ノ種類	個數及程度	條件
右燈火管制規則第六條第二號ニ依リ使用ヲ許可ス			
昭和 年 月 日	京都府警察署長 地方警視 氏 名 印		

注意 光ノ使用者ハ本許可證ヲ携帯シ警察官史ノ求メアリタルトキハ之ヲ提出スベシ
使用時間ヲ經過シタルトキハ速ニ返納スベシ

第二號様式

(横縦 二七〇 二七〇)

第 號		燈火管制規則 許可證	
光ノ所在地	又ハ區域	光ノ種類	個數及位置
光ノ程度	光ノ秘匿	設備又ハ	設置ノ概要
右燈火管制規則第六條第二號ニ依リ使用ヲ許可ス			
昭和 年 月 日	京都府 氏 名 印		

燈火管制規則施行細則取扱手續

(昭和十三年八月九日
京都府訓令第二十八號)

- 第一條 燈火管制規則施行細則(以下細則ト稱ス)第一條第一項、第四條第一項第五條第一項ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ事實ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スベシ
- 第二條 細則第二條ノ規定ニ依ル届出ヲ受理シタルトキハ速ニ事實ヲ調査シ知事ニ報告スルト共ニ關係陸海軍司令官ニ通報スベシ
- 第三條 燈火管制規則(以下規則ト稱ス)第六條第二號ノ規定ニ依ル許可ヲ爲シタルトキハ知事ニ速報スベシ
- 第四條 規則第十四條第四號ノ規定ニ依ル協議ハ特別ノ事情アル場合ノ外警察部長ヲ經由スベシ
- 第五條 警察署ニハ別記第一號様式ノ名簿ヲ備ヘ細則第三條ノ規定ニ依ル申請ニ關スル事項ヲ處理スベシ
- 第六條 警察署ニハ別記第二號様式ノ名簿ヲ備ヘ細則第一條第一項又ハ第五條第一項ノ規程ニ依ル申請ニ依リ指定アリタル光及細則第四條第一項ノ規定ニ依ル申請ニヨリ許可アリタル光ニ付所定ノ事項ヲ登錄スベシ

第一號様式 光ノ使用許可名簿

許可年月日 昭和 年 月 日	至昭和 年 月 日 自昭和 年 月 日	使用ノ目的	使用ノ場所 又ハ區域	光ノ種類 個數及程度	關係陸海軍司令官 トノ協議ヲナシタルモノニア リテハ其ノ願末	條件	備考	使用者 住所 氏名
								至昭和 年 月 日 自昭和 年 月 日

第二號様式 燈火管制規則ニ依ル許可(指定)名簿

備考	條件	光設備ノ秘匿 設置ノ概要	光ノ程度	個燈器ノ種類 及位種類	光ノ所在地 又ハ使用區域	許可	
						昭 和 第	昭 和 第
						年 月 日	年 月 日
						住所	氏名

京都府告示第一二五九號

燈火管制規則第四條ノ規定ニ依リ警戒管制ノ程度ニ依リ光ヲ秘匿スベキ期間、燈火ノ種類並ニ地域ヲ左ノ通指定ス

昭和十六年十二月八日

京都府知事 安藤 狂四郎

記

期 間 昭和十六年拾貳月八日ヨリ別ニ告示スル迄ノ間

燈火ノ種類 廣告看板裝飾燈類、特別屋外燈類

地 域 府下一圓

○防空監視

防空監視隊令

(昭和十六年十二月十七日
勅令第千百三十六號)

- 第一條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ハ航空機ノ來襲ノ監視(之ニ伴フ通信ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ従事セシムル爲防空監視隊ヲ設置スベシ
各道府縣ニ於ケル防空監視隊ノ配置及編成ハ地方長官防空計畫ニ於テ之ヲ定ムベシ
- 第二條 防空監視隊ハ本部及監視哨(專ラ監視ニ従事セシムル防空監視船ヲ含ム以下之ニ同ジ)ヨリ成ル
- 第三條 防空監視隊員ハ防空法第六條ノ二第一項ノ規定ニ依リ地方長官ニ於テ指定シタル者ヲ以テ之ヲ組織ス但シ警察官吏其ノ他ノ官吏(待遇官吏ヲ含ム)ヲ之ニ加フルコトヲ得
- 第四條 防空監視隊本部ニ隊長一名、副隊長若干名及本部員若干名ヲ置ク
防空監視哨ニ哨長一名、副哨長若干名及哨員若干名ヲ置ク
前二項ニ掲グル者ハ地方長官之ヲ命免ス
- 第五條 隊長ハ隊員ヲ統率シ隊務ヲ掌理ス
副隊長ハ隊長ヲ輔佐シ隊長事故アルトキハ隊長ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理ス

- 哨長ハ上長ノ命ヲ承ケ哨員ヲ指揮シテ業務ニ従事ス
副哨長ハ哨長ヲ輔佐シ哨長事故アルトキハ哨長ノ定ムル所ニ依リ之ヲ代理ス
- 第六條 防空監視隊ハ地方長官之ヲ指揮監督ス
警察署長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ防空監視隊ヲ指揮監督ス
- 第七條 地方長官ハ防空監視隊員ヲシテ必要ナル訓練ヲ受ケシムルコトヲ得
- 第八條 防空監視隊ノ業務ニ關シ陸海軍ノ行フ防衛ニ即應セシムル爲必要ナル事項ニ付テハ當該區域ノ防衛ヲ擔任スル軍司令官、師團長若ハ要塞司令官又ハ鎮守府司令長官若ハ警備府司令長官ノ定ムル基準ニ依ルモノトス
- 第九條 第三條本文ニ掲グル防空監視隊員監視又ハ其ノ訓練ニ従事シタルトキハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ之ニ手當及旅費ヲ支給ス
- 第十條 防空監視隊員ノ服務方法、服務紀律等ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和十六年法律第九十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十六年勅令第千百三十四號ヲ以テ昭和十六年十二月二十日ヨリ施行)

○防空通信

防空通信規則

(昭和十三年一月二十八日逓信省令第九號)
(昭和十六年五月二十九日改正逓信省令第五十五號)

- 第一條 防空通信ニ關シテハ本令ノ定ムル所ニ依ル
 - 第二條 防空通信トハ戰時又ハ事變ニ際シ防空ノ實施ニ直接必要ナル電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ依ル通信ニシテ關係陸海軍官憲、關係官公署及之等ノ命ヲ受ケ防空ノ實施ニ從事スル者相互間ニ發受スルモノヲ謂フ
 - 第三條 防空通信ハ左ノ三種トス
 - 一 警報
 - 二 情報
 - 三 指揮連絡報
- 防空警報ヲ防空警報發令官又ハ通信官署ヨリ通報スル通信
- 防空監視ノ事務ニ從事スル者ヨリ航空機ノ行動又ハ航空機ヲ搭載シ若ハ其ノ搭載ノ疑アル敵艦艇(敵ノ疑アルモノヲ含ム)ノ行動ヲ報告スル通信
- 防空機關相互間ニ於ケル指揮及當該指揮ニ對スル措置報告等ニシテ緊急ヲ要スル通信

- 第四條 警報ハ最先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ
情報ハ警報ニ次グ先順位ヲ以テ之ヲ取扱フ
指揮連絡報ハ至急官報又ハ至急通話ト同一順位ヲ以テ之ヲ取扱フ但シ逓信大臣ニ於テ特ニ必要アリト認ムルモノハ至急官報又ハ至急通話ニ優先シ之ヲ取扱フ
- 第五條 防空電報ハ電報取扱時間ニ拘ラズ之ヲ取扱フ
- 第六條 電話官署警報又ハ情報ノ取扱上必要アリト認ムルトキハ他ノ通話ヲ中斷スルコトアルベシ
- 第七條 防空通信ヲ發スル者ハ其ノ請求ノ際第三條ノ種別ヲ申出ヅベシ
前項ノ場合ニ於テ第四條第三項但書ノ規定ニ依ル取扱ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ申出ヅベシ
- 第八條 防空通信ハ無料トス
防空通信ノ爲必要ナル加入又ハ専用電話ニ關スル料金ハ之ヲ特定又ハ免除スルコトアルベシ
- 第九條 公衆通信ヲ取扱ハザル私設又ハ官應用ノ電信、電話、無線電信若クハ無線電話ヲシテ防空通信ノ取扱ヲ爲サシムルトキハ其ノ旨ヲ當該施設者ニ通知ス
- 第十條 防空通信ノ取扱ヲ爲ス私設又ハ官應用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ハ其ノ専用通信ニ優先シ防空通信ヲ取扱フベシ但シ人命財産ノ安全ニ關シ緊急ヲ要スル専用通信ハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十一條 第九條ノ通知ヲ受ケタル私設又ハ官應用ノ無線電信若ハ無線電話ハ其ノ通信執務時間ニ拘ラズ防空通信ノ取扱ヲ爲スベシ

第十二條 電信法第二條第四號、無線電信法第二條第三號、官廳用電信電話規程第一條第四號又ハ官廳用無線電信無線電話規則第一條第三號ニ依ル施設ニシテ第九條ノ規定ニ依リ防空通信ノ取扱ヲ爲スモノハ私設電信私設無線電信公衆通信取扱規則第三條及第十一條ノ規定ニ拘ラズ託送取扱ヲ爲スコトヲ得

第十三條 私設又ハ官廳用ノ電信、電話、無線電信若ハ無線電話ニ於テ取扱ヒタル防空通信ニ對シテハ取扱費ヲ支給セズ

第十四條 遞信大臣ハ防空通信上必要アリト認ムルトキハ私設又ハ官廳用ノ電信、電話ノ設備ノ變更、使用ノ制限若ハ停止ヲ命ズルコトアルベシ

第十五條 本令ニ規定ナキ事項ハ電信、電話、無線電信又ハ無線電話ニ關スル一般ノ規定ニ依ル第十六條 防空ノ訓練ニ際シ遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ別ニ告示スル所ニ依リ本令ノ規定ヲ準用ス

附 則

本令ハ昭和十三年二月十日ヨリ之ヲ施行ス

○防空警報

訓練防空警報規則

(昭和十三年四月五日
內務省令第十二號)

防空法第十條第一項ノ規定ニ依ル防空ノ訓練ヲ爲ス場合ニ於テ發スル訓練防空警報ハ防空警報ノ區分ニ準ジ訓練警戒警報、訓練警戒警報解除、訓練空襲警報及訓練空襲警報解除トス
訓練防空警報ヲ發スベキ者ハ防空訓練ノ都度內務大臣之ヲ指定ス
前項ノ指定ナキ場合ニ於テハ防空法施行令第七條ノ陸海軍司令官又ハ其ノ指定スル者ノ發スル訓練防空警報ヲ以テ第一項ノ訓練防空警報トス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

防空警報類似音響取締規則

(昭和十三年六月十一日
京都府令第二十三號)

第一條 本令ニ於テ警戒警報、空襲警報及空襲警報解除ト稱スルハ防空法施行令第七條第一項ノ規定ニ依ル防空警報及解除ヲ、訓練警戒警報、訓練空襲警報及訓練空襲警報解除ト稱スルハ訓

練防空警報規則ニ依ル訓練防空警報及解除ヲ謂フ

第二條 警戒警報又ハ空襲警報ノ發令中ハ空襲警報及空襲警報解除ノ傳達以外ノ目的ニ電動サイレン、手動サイレン及汽笛ヲ使用スベカラズ

訓練警戒警報又ハ訓練空襲警報ノ發令中ハ前項ノ規定ニ準ジ訓練空襲警報及訓練空襲警報解除ノ傳達以外ノ目的ニ電動サイレン、手動サイレン及汽笛ヲ使用スベカラズ

第三條 防空上必要アリト認ムルトキハ前條ニ規定スル場合ノ外期間ヲ定メ電動サイレン、手動サイレン及汽笛ノ全部又ハ一部ノ使用ヲ禁止スルコトアルベシ

前項ノ規定ニ依リ音響ノ使用ヲ禁止スル場合ハ禁止ノ期間及禁止スベキ音響ノ範圍ヲ告示ス

第四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ本令ノ規定ニ拘ラズ必要最小限度ノ音響ヲ使用スルコトヲ得但シ空襲警報發令中ハ此ノ限ニ在ラズ

一 火災其ノ他重大ナル事故ノ防壓ノ爲緊急ノ必要アルトキ

二 特別ノ必要ニ因リ警察署長ノ許可ヲ受ケタルトキ

第五條 第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三條第一項ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

前項ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ適用ス

京都府告示第一、二六〇號

防空警報類似音響取締規則第三條ノ規定ニ依リ音響ノ使用ヲ左記ニ依リ禁止ス

昭和十六年十二月八日

京都府知事 安藤 狂四郎

記

期 間 昭和十六年十二月八日ヨリ別ニ告示スル迄ノ間

音響ノ種類 電動サイレン、手動サイレン及汽笛

地 域 府下一圓

○防 毒

防毒資材取締規則

(昭和十三年五月二日內務省令第一號
昭和十六年六月二十七日改正內務省令第一號
昭和十七年改正第一號)

第一條 本令ニ於テ防毒具ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ニ對スル防護具ヲ謂フ
防毒具ハ左ノ二種トス

第一種 防毒面、酸素呼吸器、防毒衣、防毒手袋、防毒靴、防毒濾函、防毒面ノ覆面、呼氣瓣
及吸收罐並ニ酸素呼吸器ノ覆面、空氣更新罐、酸素發生劑罐、減壓瓣、氣囊、過壓安全瓣及
吸排氣瓣函

第二種 其ノ他ノ防毒具

本令ニ於テ防毒檢定器ト稱スルハ毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ檢知スル器具及防毒具ノ
性能ヲ檢査スル器具ヲ謂フ

本令ニ於テ防毒藥物ト稱スルハ防毒面吸收罐又ハ防毒濾函ニ使用シ防毒ノ效能アリトスル藥
物、毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ノ檢知ノ效能アリトスル藥物及防毒ノ效能アリトスルモ
ノニシテ內務大臣及厚生大臣ノ指定スル藥物ヲ謂フ

本令ニ於テ防毒具材料ト稱スルハ防毒具ノ製造又ハ修覆ニ使用スル物ニシテ內務大臣ノ指定ス

ルモノヲ謂フ

第二條 本令ハ販賣ノ用ニ供スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付之ヲ適用ス但
シ第十一條及第十二條ノ規定ハ販賣ノ用ニ供セザルモノニ付テモ之ヲ適用ス

第三條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ヲ製造セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ、輸入又ハ
移入セントスル者ハ第一號乃至第三號及第六號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所
所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ヲ經由シ內務大臣ノ許可ヲ受クベ
シ

- 一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、商號及業務所所在地
- 二 製造所ノ名稱及所在地
- 三 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ種類、型式、構造及性能
- 四 製造方法及製造設備(製品檢査設備ヲ含ム)ノ概要並ニ一年ノ製造能力
- 五 主任技術者ノ氏名及履歷
- 六 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ添附スル性能説明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ內務大臣ニ届出ヅベシ

第四條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタ
ル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ其ノ型式及製造年並ニ製造者ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名
稱)又ハ商號ヲ明記シ且防毒面吸收罐又ハ防毒濾函ニ別表ニ掲グル性能標識ヲ附スベシ

第五條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ付内務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定申請書ヲ提出スベシ

第一項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニハ第一號様式ノ檢定證印ヲ附ス

第六條 第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材料ヲ發賣セントスル者ハ左ノ各號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

- 一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、商號及營業所所在地
- 二 製造所ノ名稱及所在地
- 三 第二種防毒具ニ在リテハ其ノ種類、型式、構造及性能
- 四 防毒藥物ニ在リテハ其ノ品名、品質及效能(製劑ニ在リテハ原料品名及其ノ分量並ニ製造方法ノ概要ヲ併記スルコト)
- 五 防毒具材料ニ在リテハ其ノ品名、品質及性能
- 六 第二種防毒具、防毒藥物又ハ防毒具材料ニ添附スル性能又ハ效能説明書

前項第三號乃至第六號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第一項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ地方長官ニ届出ツベシ

第七條 第二種防毒具ノ發賣者ハ其ノ發賣スル第二種防毒具ニ其ノ型式及發賣者ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)又ハ商號ヲ明記スベシ

防毒藥物ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒藥物ノ容器又ハ被包ニ防毒藥物ナル文字、品名及發賣者

ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)又ハ商號ヲ明記スベシ

防毒具材料ノ發賣者ハ其ノ發賣スル防毒具材料ノ容器又ハ被包ニ防毒具材料ナル文字、品名及發賣者ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)又ハ商號ヲ明記スベシ

第八條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ請賣營業ヲ爲サントスル者ハ營業所毎ニ營業所所在地ノ地方長官ニ届出ツベシ

第九條 第五條第二項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第一種防毒具若ハ防毒檢定器又ハ第四條若ハ第七條ノ規定ニ依ル表示若ハ性能標識ナキ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ハ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第十條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ハ第三條第一項第六號ノ性能説明書又ハ第六條第一項第六號ノ性能若ハ效能説明書ヲ添付スルニ非ザレバ之ヲ販賣スルコトヲ得ズ

第十一條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修覆營業ヲ爲サントスル者ハ營業所毎ニ營業所所在地ノ地方長官ノ許可ヲ受クベシ

第十二條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ修覆營業者ハ其ノ修覆シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニ付内務大臣ノ定ムル所ニ依リ檢定ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ檢定申請書ヲ提出スベシ

第一項ノ檢定ニ合格シタル第一種防毒具又ハ防毒檢定器ニハ第二號様式ノ檢定證印ヲ附ス

前項ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ第一種防毒具又ハ防毒檢定器ハ之ヲ修覆シタルモノトシテ交付スルコトヲ得ズ

第十二條ノ二 第五條及前條ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ手數料ヲ納付スベシ

- 一 防毒面(隔離型ノモノ) 一箇ニ付 金五錢
- 二 防毒面(直結型ノモノ) 一箇ニ付 金二錢
- 三 壓縮酸素式酸素呼吸器 一箇ニ付 金一圓
- 四 酸素發生式酸素呼吸器 一箇ニ付 金四十錢
- 五 防毒衣 一著ニ付 金十錢
- 六 防毒手袋 一組ニ付 金五錢
- 七 防毒靴 一足ニ付 金五錢
- 八 防毒濾函 一箇ニ付 金二圓
- 九 防毒面(隔離型ノモノ)及酸素呼吸器ノ覆面 一箇ニ付 金二錢

- 十 防毒面(直結型ノモノ)ノ覆面 二箇ニ付 金一錢
- 十一 防毒面ノ呼氣瓣 一箇ニ付 金一錢
- 十二 防毒面(隔離型ノモノ)ノ吸收罐 一箇ニ付 金二錢
- 十三 防毒面(直結型ノモノ)ノ吸收罐 一箇ニ付 金一錢
- 十四 酸素呼吸器ノ空氣更新罐 一箇ニ付 金五錢
- 十五 酸素呼吸器ノ酸素發生劑罐 一箇ニ付 金十錢
- 十六 酸素呼吸器ノ減壓瓣 一箇ニ付 金七十錢
- 十七 酸素呼吸器ノ氣囊 一箇ニ付 金十錢
- 十八 酸素呼吸器ノ過壓安全瓣 一箇ニ付 金二錢

十九 酸素呼吸器ノ吸排氣瓣函

一箇ニ付 金 八 錢

二十 防毒檢定器

イ 毒性ノ瓦斯、煙霧、液體、粉塵等ヲ檢知スル器具

一箇ニ付 金 二十 錢

ロ 防毒具ノ性能ヲ檢査スル器具

一箇ニ付 金 一 圓

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ檢定申請書ニ之ヲ貼付スベシ既納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ

第十三條 地方長官ハ當該官吏ヲシテ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ製造、貯藏若ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十四條 第一種防毒具又ハ防毒檢定器ノ製造者、輸入者又ハ移入者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ内務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十五條 第二種防毒具、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ發賣者、防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ノ請賣營業者又ハ第一種防毒具若ハ防毒檢定器ノ修覆營業者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ地方長官ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ營業ヲ禁止若ハ停止スルコトヲ得

第十六條 第三條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役ニ處ス

第十七條 第六條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第三條第二項、第四條、第六條第二項、第七條乃至第九條、第十一條又ハ第十二條第三項ノ規定ニ違反シタル者

二 第十三條ノ規定ニ依ル巡視又ハ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

三 第十五條ノ規定ニ依ル營業ノ停止中其ノ營業ヲ爲シタル者

第十九條 第三條第三項、第六條第三項又ハ第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修覆營業者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十一條 本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限りニ在ラズ

第二十二條 本令ハ陸海軍ノ用ニ供スル防毒具、防毒檢定器、防毒藥物及防毒具材料ニ付テハ之ヲ適用セズ

附 則

本令ハ昭和十三年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令公布ノ際現ニ防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物ヲ製造若ハ發賣スル者又ハ其ノ請賣營業ヲ爲
 ス者ハ本令施行後一月以内ニ第三條、第六條又ハ第八條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ
 前項ノ規定ニ依リ第三條又ハ第六條ノ許可ヲ申請シタル者ニ付テハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不
 許可ノ處分ノ日迄第四條、第五條及第七條ノ規定ハ之ヲ適用セズ
 本令施行ノ際現ニ存スル防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物又ハ第二項ノ規定ニ依リ第三條若ハ第
 六條ノ許可ヲ申請シタル者ガ其ノ申請ニ對スル許可若ハ不許可ノ處分ノ日迄ニ製造若ハ發賣シタ
 ル防毒具、防毒檢定器若ハ防毒藥物ニ付テハ昭和十四年十二月三十一日迄第九條及第十條ノ規定
 ハ之ヲ適用セズ

別表

防毒面吸收罐及防毒濾函種類	性能標識	
	標識色	標識記號
普通瓦斯用	灰色及黑色	イ
酸性瓦斯用	灰色	ロ
有機瓦斯用	黑色	ハ
粉塵用	白色	ホ
一酸化炭素用	紅色	ヘ
消滅用	白色及紅色	ト
金屬煙氣用	白色及黑色	チ
アンモニア用	綠色	リ
亞硫酸及硫磺用	橙色	ヌ
青酸用	青色	ル
硫化水素用	黃色	ヲ
磷化水素及砒化水素用	藍色	ワ
各種瓦斯及煙霧用	暗赤色	カ
防空用	樺色	ヨ

備考

- 一 標識色ハ外部全面一様ニ塗色シ二色ノ場合ハ上下二層ニ塗色スルコト
- 二 標識記號ハ白字ヲ以テ表スコト但シ標識色白色ナルトキハ黒字ヲ以テ表スコト



第一號樣式
外圓
直徑一五耗



第二號樣式
外圓
直徑一五耗

内務省告示第四百十七號

防毒資材取締規則第五號及第十二條ノ檢定ハ内務省防空研究所之ヲ行フモノトス

昭和十四年八月一日

内務大臣 侯爵 木 戸 幸 一

九〇

防毒資材取締規則施行細則

(昭和十三年六月二十九日
京都府令第二十七號)

- 第一條 防毒資材取締規則(以下規則ト稱ス)第三條又ハ第六條ノ規定ニ依ル許可申請書又ハ届書ハ主タル業務所又ハ主タル營業所所在地ノ警察署長ヲ經由スベシ
- 規則第八條、第十一條又ハ本令第五條ノ規定ニ依ル届書又ハ許可申請書ハ營業所毎ニ營業所所在地ノ警察署長ヲ經由スベシ
- 第二條 規則第三條ノ規定ニ依ル許可申請書又ハ届書ハ正副二通ヲ提出シ同條第一項ノ規定ニ依ル見本品ハ特別ノ事情アル場合ノ外二個ヲ添附スベシ
- 第三條 規則第八條ノ規定ニ依ル届書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 本籍、住所、氏名、生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者氏名)商號及營業所所在地
 - 二 請賣品ノ製造者、輸入者、移入者又ハ發賣者ノ氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)及商號
 - 三 請賣品ノ種類及品名
- 第四條 規則第十一條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 本籍、住所、氏名、生年月日(法人ニ在リテハ其ノ名稱及代表者ノ氏名)、商號及營業所所在地

- 二 修覆場所
 - 三 修覆品ノ種類
 - 四 修覆設備ノ概要
 - 五 主任技術者ノ氏名及履歷
- 第五條 規則第十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者修覆品ノ種類、修覆設備又ハ主任技術者ヲ變更セントスルトキハ其ノ事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クベシ
- 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十日以内ニ之ヲ知事ニ届出ヅベシ
- 一 第三條又ハ第四條第一號若ハ第二號ノ事項ヲ變更シタルトキ
 - 二 廢業シタルトキ
 - 三 業務者又ハ營業者死亡(法人ニ在リテハ解散)シ又ハ所在不明トナリタルトキ
- 前項第三號ノ場合ニ於ケル届出ハ戶籍法第一百七條ニ依ル届出義務者(法人ニ在リテハ清算人)之ヲ爲スベシ
- 第七條 知事ハ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者又ハ修覆營業者ニ對シ業務所、製造所、營業所又ハ修覆場所ノ設備ノ新設、改善其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトアルベシ
- 第八條 規則第十三條ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ巡視又ハ検査ヲ爲サシムルトキハ別記様式ニ依ル證票ヲ携帯セシム
- 第九條 第五條若ハ第六條ノ規定又ハ第七條ノ規定ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ科料ニ處ス

第十條 防毒具、防毒檢定器、防毒藥物又ハ防毒具材料ノ製造者、輸入者、移入者、發賣者、請賣營業者、又ハ修履營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十一條 本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ其ノ代表者ニ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

別記様式

(用紙上質模造紙 縦八・五厘 横六・〇厘)

第 號	昭和 年 月 日交付
防毒資材検査員之證 <small>京都府印</small>	
官職	氏名

防毒資材取締規則摘要

第十三條 地方長官ハ當該官吏ヲシテ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ製造、貯藏若ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ防毒具、防毒檢定器、防毒藥物若ハ防毒具材料ヲ検査セシムルコトヲ得

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

二 第十三條ノ規定ニ依ル検査ヲ拒ミ妨ゲ又ハ忌避シタル者

防毒資財取締規則施行細則摘要

第八條 規則第十三條ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ巡視又ハ検査ヲ爲サシムルトキハ別記様式ニ依ル證票ヲ携帯セシム

防毒資材取締規則施行細則取扱手續

(昭和十三年六月二十九日 京都府訓令第二十號)

- 第一條 防毒資材取締規則(以下規則ト稱ス)第三條第一項、第六條第一項又ハ第十一條ニ依ル許可申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ具シ速ニ進達スベシ
- 一 記載事項ハ具備スルヤ
 - 二 規則第十四條又ハ第十五條ノ處分ヲ受ケタル事實ナキヤ
 - 三 性行、來歴
 - 四 資産信用ノ程度(法人ニ在リテハ資本金)
 - 五 其ノ他參考事項
- 第二條 規則第三條第二項第六條第二項又ハ防毒資材取締規則施行細則(以下細則ト稱ス)第五條ノ許可申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ事由ヲ調査シ意見ヲ具シ速ニ進達スベシ
- 第三條 規則第三條第三項、第六條第三項又ハ細則第六條ノ届書ヲ受理シタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ速ニ進達スベシ
- 第四條 規則第八條ニ依ル届書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ速ニ進達スベシ
- 一 記載事項ハ具備スルヤ
 - 二 規則第十五條ノ處分ヲ受ケタル事實ナキヤ
 - 三 其ノ他參考事項
- 第五條 警察署ニハ別記様式ニ依ル防毒資材業者臺帳ヲ備ヘ異動ノ都度之ヲ整理スベシ

主タル業務所ハ主タル營業所所在地ヲ變更シタルトキハ本府内ニ於テハ其ノ所轄警察署ニ、他ノ廳府縣ナルトキハ本府警察部ニ前項ノ臺帳ヲ送付スベシ

第六條 細則第七條ノ規定ニ依リ設備ノ新設、改善其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルノ要アリト認めタルトキハ其ノ事由ヲ具シ上申スベシ

第七條 規則第十四條又ハ第十五條ニ依ル行政處分ノ必要アリト認めタルトキハ其ノ事由ヲ具シ上申スベシ

別記様式

防毒資材業者臺帳

(用紙美濃型)

表

營業種別	許可		廢業	製造所又ハ修履場所々在地	製造輸入移入發賣修履又ハ請賣品ノ種類	製造又ハ修履方法及ビ其ノ設備概要	一年間ノ製造能力	主任技術者ノ氏名及履歴ノ概要
	昭和	昭和						
營業所又ハ商號	昭和	昭和	昭和					
營業所々在地	年	年	年					
商號	月	月	月					
住本所籍	日	日	日					
氏名								

裏

備考	備考

○防空建築及防火改修

九六

市街地建築物法 (抄)

第十二條 主務大臣ハ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ衛生上保安上又ハ防空上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

防空建築規則

(昭和十四年二月十七日内務省令第五號
昭和十七年三月二十七日内務省令第十五號改正)

第一條 市街地建築物法第十二條ノ規定ニ依ル建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ防空上必要ナル事項ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 削除

第三條 本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

- 一 耐火木材トハ耐火液ヲ注入シタル木材ニシテ内務大臣ノ定ムル規格ニ適合シタルモノ (甲種耐火木材又ハ乙種耐火木材) ヲ謂フ
- 二 防火塗料トハ木材等ニ塗布スル塗料ニシテ内務大臣ノ定ムル規格ニ適合シタルモノヲ謂フ

三 床又ハ屋根ノ耐彈構造トハ鐵筋「コンクリート」造(鐵骨鐵筋「コンクリート」造ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ 版ノ厚ハ四十センチメートル以上ニシテ各部分ニ於ケル鐵ト「コンクリート」トノ容積比ハ〇・〇四以上且複筋及繫筋ヲ配置シ主筋ノ間隔ハ十五センチメートル以下ト爲シ上下ノ鐵筋ハ千鳥ニ配シ適當ニ熔接シタルモノ

ロ 版ノ厚特ニ大ナルモノ等ニシテ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)前號ト同等以上ノ耐彈効力アリト認ムルモノ

四 防護扉トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ 鐵製ニシテ鐵板ノ厚ノ合計三ミリメートル以上且防毒上有效ナル構造ヲ有スルモノ

ロ 木造ニシテ厚六センチメートル以上且防毒上有效ナル構造ヲ有スルモノ

ハ 其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

五 防彈扉トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ 鐵製ニシテ鐵板ノ厚ノ合計十ミリメートル以上ノモノ

ロ 「コンクリート」製ニシテ「コンクリート」ノ厚十センチメートル以上ノモノ

ハ 其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ

六 防護壁トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

イ 鐵筋「コンクリート」造ノ壁體ニシテ厚二十センチメートル以上且爆風ニ因リ倒壊セザル構造ヲ有スルモノ

九七

ロ 堰板間ニ土砂、砂利ノ類ヲ充填セル壁體ニシテ厚五十センチメートル以上且爆風ニ因
 リ倒壊セザル構造ヲ有スルモノ
 ハ 土囊、砂囊ノ類ヲ積上ゲタル壁體ニシテ厚七十センチメートル以上且爆風ニ因リ倒壊
 セザル構造ヲ有スルモノ
 ニ 其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ
 第四條 木造(鐵骨木造ヲ含ム以下之ニ同ジ)建物ニシテ隣地疆界線又ハ道路ノ中心線ヨリノ水平
 距離三メートル未満ノ位置ニ在ル部分ニ付テハ左ノ構造ト爲スベシ
 一 外壁、軒、庇、軒蛇腹ノ類又ハ出格子、肘掛、戸袋其ノ他建物ノ突出部ハ準耐火構造ト爲
 シ又ハ左ニ掲グルモノヲ以テ構成若ハ被覆スルコト

イ	鐵網「モルタル」、漆喰等ニシテ塗厚二種以上ノモノ	水平距離二米以上ノトキ
ロ	塗土ニシテ裏返塗ヲ施シタルモノ	塗土
ハ	耐火木材ニシテ厚一種以上ノモノ(水平距離〇・五 米未満ノトキ又ハ外壁、庇若ハ軒蛇腹ニ用フルトキ ヲ除ク)	耐火木材ニシテ厚一種以上ノモノ
ニ		石綿板又ハ金屬板ニシテ木部ト適當ニ隔 離セルモノ

ホ	「マグネシヤセメント」板、張瓦等ニシテ厚一・五種 以上ノモノ	「マグネシヤセメント」板、張瓦等ニシテ 厚一種以上ノモノ
ヘ	木毛「セメント」板ノ上ニ「モルタル」又ハ漆喰ヲ塗り タルモノニシテ厚合計二・五種以上ノモノ	木毛「セメント」板ノ上ニ「モルタル」又ハ 漆喰ヲ塗りタルモノ
ト	其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ	同上

一、外壁、戸袋、破風、鼻隠等多量ノ雨雪ヲ受クル部分ニ使用スル耐火木材ハ甲種耐火木材トス
 二、地方長官防火上支障ナシト認ムルトキハ雨雪ヲ防グ爲(ロ)ノ材料ヲ以テ構成シタル外壁ヲ他ノ材
 料ヲ以テ被覆スルコトヲ得

二 窓又ハ出入口ニハ防火戸又ハ左ニ掲グルモノヲ以テ構成シタル戸ヲ設ケ其ノ周圍部ハ前號
 ニ規定スル構造ト爲スコト

イ	耐火木材ニシテ厚一種以上ノモノ	耐火木材
ロ		金屬板又ハ石綿板
ハ	「マグネシヤセメント」板ニシテ厚一種以上ノモノ	「マグネシヤセメント」板
ニ	網入ガラス	同上
ホ	其ノ他地方長官前各號ニ準ズト認ムルモノ	同上

三 金屬板ヲ以テ被覆シタル屋根ノ野地ハ適當ナル厚ノ不燃材料又ハ耐火木材ヲ以テ之ヲ構成スルコト

地盤面ヨリノ高四メートルヲ超ユル木造建物ノ部分ニシテ隣地疆界線又ハ道路ノ中心線ヨリノ水平距離五メートル未滿ノ位置ニ在ルモノニ付テハ前項ノ規定ヲ適用ス
同一敷地内ニ於テ隣接スル木造建物ニ在リテハ互ニ相面スル外壁間ノ中心線ヲ以テ隣地疆界線ト看做シ前二項ノ規定ヲ適用ス但シ建築面積ノ合計六百平方メートル以下ノ建物ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第四條ノ二 地方長官ハ門、牆塀ノ類ニ付其ノ規模、構造、周圍ノ狀況等ヲ參酌シ前條ノ規定ニ準ジ防火上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ地方長官第四條ノ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

- 一 建物ノ屋階及地階ヲ除キタル部分ノ床面積ノ敷地面積ニ對スル割合ノ限度十分ノ五以下ノ空地地區内ニ在ル建物
- 二 床面積四平方メートル以下ノ平家建ノ建物
- 三 公園、廣場、河、海ノ類ニ面スル建物ノ部分
- 四 擁壁、防火壁又ハ防火上有效ナル牆塀ノ類ニ面スル建物ノ部分
- 五 防火上有效ナル袖壁ノ類ヲ設ケタル場合ニ於ケル其ノ後方ノ建物ノ部分
- 六 適當ニ「ドレンチャイ」ヲ設備スル建物ノ部分

七 第四條第一項第一號ニ規定スル構造ヲ有スルモノニ依リ絶縁セラル、建物ノ突出部

八 柱、桁其ノ他木材ヲ使用スル建物ノ部分

九 其ノ他地方長官防火上支障ナシト認ムル建物又ハ建物ノ部分

第五條ノ二 木造建物ニシテ床面積六百平方メートル軒高五メートルヲ超ユルモノニ在リテハ左ノ構造ト爲スベシ

一 外壁、軒、庇、軒蛇腹ノ類ハ準耐火構造ト爲スコト

二 主要ナル間壁ハ鐵網「モルタル」、塗土、漆喰ノ類又ハ耐火木材ヲ以テ構成又ハ被覆スルコト

三 桁行十二メートルヲ起ユルトキハ小屋裏及天井裏ヲ間隔十二メートル以内毎ニ鐵網「モルタル」塗土、漆喰ノ類ヲ以テ區劃スルコト

四 長十二メートルヲ超ユル廊下ニハ長十二メートル以内毎ニ鐵網「モルタル」、塗土、漆喰ノ類ヲ以テ構成又ハ被覆シタル垂壁ヲ設ケルコト

五 木造天井ニハ防火塗料ヲ塗布スルコト但シ不燃材料又ハ耐火木材ヲ以テ構成又ハ被覆シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

防火壁ヲ以テ區劃セラル、建物ノ部分ハ前項ノ適用ニ關シ之ヲ別ノ建物ト看做ス

地方長官防火上支障ナシト認メ又ハ建物ノ用途ニ依リ已ムヲ得ズト認ムルトキハ第一項ノ制限ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第五條ノ三 第四條第一項第一號若ハ第二項又ハ前條第一項ノ規定ニ依ル壁體ノ主要ナル構造用

木材ノ腐蝕ノ虞アル部分ニハ適當ナル防腐方法ヲ施スベシ

第五條ノ四 木造建物ノ屋根瓦葺ナルトキハ其ノ野地ニ土居塗ヲ爲スベシ但シ野地ヲ適當ナル不燃材料、耐火木材等ヲ以テ構成シタルトキ其ノ他地方長官防火上支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 木造ノ長屋ニ在リテハ地盤ヨリ屋根ニ達スル迄土塗壁又ハ金屬板ノ類ヲ以テ各戸ヲ區劃スベシ

木造ノ長屋ニシテ其ノ建築面積百五十平方メートルヲ超ユルモノハ百五十平方メートル以内毎ニ準防火壁ヲ設クベシ

第七條 準防火壁ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルベシ但シ準防火壁ノ壁面ヨリ一・五メートル以上ニ互リ建物ノ外周部又ハ野地ヲ第四條第一項ノ構造ト爲シタルトキハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

- 一 厚三センチメートル以上ノ鐵網「モルタル」造ノ類ニシテ倒壊ノ虞ナキモノト爲スコト
 - 二 兩端ハ之ニ近接スル木部ヨリ三十センチメートル(地盤面上二・五メートル以内ノ部分ハ十五センチメートル)以上突出セシムルコト
 - 三 上端ハ屋根面ニ直角ニ測リ四十五センチメートル以上屋上ニ突出セシムルコト
- 第八條 木造建物ノ開口ニシテ隣地疆界線ニ面シ且隣地疆界線ヨリノ水平距離一メートル未滿ノモノニ付テハ地方長官防火上ノ必要ニ依リ之ガ設置ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得
- 金屬板ヲ以テ屋根ヲ被覆シタル木造建物ニ在リテハ前項ノ距離ヲ二メートル未滿トス

第八條ノ二 木造建物ニ在リテハ防火庫ノ用ニ供シ得ベキ容量一立方メートル以上ノ地窖ヲ設クベシ但シ地方長官建物ノ用途若ハ土地ノ狀況ニ依リ必要ナシト認メ又ハ之ニ代ルベキ適當ナル設備アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 鐵筋「コンクリート」造ノ建物又ハ建物ノ部分ニシテ階數六以上ノモノ又ハ階數五且其ノ床面積三千平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲スベシ但シ最上階ニ集會室ノ類アル爲其ノ屋根ヲ耐彈構造ト爲シ難キ場合ニ於テハ其ノ部分ニ付テハ床ヲ耐彈構造ト爲シ之ニ代フルコトヲ得

前項ノ建物又ハ建物ノ部分ニハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室ヲ設クベシ

第十條 鐵筋「コンクリート」造ノ建物ニシテ其ノ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノニ在リテハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ收容面積ヲ有スル防護室又ハ準防護室ヲ設クベシ

第十一條 外壁木造又ハ鐵造ノ建物ニシテ床面積六百平方メートルヲ超ユルモノハ其ノ居室ノ床面積ノ十分ノ一以上ノ面積ヲ有シ且周壁鐵筋「コンクリート」造若ハ之ト同等以上ノ防彈效力ヲ有スル室、地窖其ノ他防護ノ施設ヲ設クベシ

第十二條 前項ノ防護室、準防護室、其ノ他防護施設ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ當該建物ノ外ニ之ヲ設クルコトヲ得

第十三條 壁體ヲ以テ遮斷セラル、建物ニ付テハ第九條乃至第十一條ノ規定ハ其ノ區劃セラル、部分ニ付之ヲ適用ス

第十三條

地方長官ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニ付防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設ニ關シ第十條又ハ第十一條ノ規定ニ準ジ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

- 一 公共團體ノ公用ニ供スルモノ
- 二 學校
- 三 病院
- 四 停車場、停留場又ハ航空機若ハ汽船ノ發着場
- 五 卸賣市場
- 六 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場
- 七 劇場、映畫館、演藝場、觀物場、公會堂又ハ集會場
- 八 前各號ニ掲グルモノ、外地方長官命令ヲ以テ指定スルモノ

第十四條

防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

- 一 收容室ト前室トニ區劃シ又ハ臨時區劃ノ設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト但シ地方長官防護室ノ位置其ノ他ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 收容室ノ床面積ハ百平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 三 上部ノ床又ハ屋根ハ耐彈構造ト爲スコト但シ防護室ノ上部ニ二以上ノ版アル場合ニ於テ地方長官支障ナシト認ムルトキハ耐彈構造ノ條件ヲ輕減スルコトヲ得
- 四 周壁ハ鐵筋(コンクリート)造ト爲スコト

五

周壁ニシテ建物ノ第一階以下ノ階ノ外壁ヲ爲スモノニ在リテハ特ニ耐彈效力大ナル構造ト爲スコト但シ其ノ周壁地中ニ在ル場合ニ於テ地盤面ニ周壁ヨリノ水平距離四メートル以上ニ互リ耐彈構造ノ版ヲ設クル等適當ナル防護施設ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

六

防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護扉ヲ設ケ且外氣ニ面スルモノニ在リテハ其ノ前面ニ出入ニ支障ナキ距離ヲ隔テ防護壁ヲ設ケ又ハ之ヲ設クル準備裝置ヲ爲スコト
前項ノ防護壁ノ高ハ出入口ノ高以上幅ハ出入口ノ幅ニ出入口ト防護壁トノ水平距離ノ二倍ヲ加ヘタルモノ以上ト爲スコト

七

外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方米以下ト爲シ且前號ニ該當スルモノヲ除クノ外防護扉ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト

八

出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脱出口ヲ設クルコト

九

防毒上有效ナル構造ト爲スコト

第十五條

準防護室ノ構造設備ハ左ノ規定ニ依ルベシ

- 一 收容室ノ床面積ハ五十平方メートルヲ超エザルコト但シ地方長官建物ノ用途其ノ他ノ狀況ニ依リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 上部ノ床又ハ屋根及周壁ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ之ト同等以上ノ耐彈效力アルモノト

爲スコト

- 三 防護ニ際シ使用スル出入口ニハ防護上支障ナキ位置ニ在ルモノヲ除クノ外防護扉ヲ設クルコト
- 四 外壁ニ設クル開口ハ其ノ面積ヲ三平方メートル以下ト爲シ且防護扉ノ類ヲ設ケ又ハ之ニ代ル臨時設備ヲ爲シ得ルモノト爲スコト
- 五 外壁ニ非ザル周壁ノ開口ニシテ面積四平方メートルヲ超ユルモノニハ防護扉ノ類ヲ設クルコト
- 六 出入口一ナル場合ニ於テハ適當ナル位置ニ非常脱出口ヲ設クルコト
- 七 防毒上有效ナル構造ト爲スコト
- 第十六條 地方長官ハ建物ノ用途其ノ他ノ狀況又ハ特別ナル事由ニ因リ已ムヲ得ズト認メ又ハ支障ナシト認ムルトキハ第九條乃至第十一條ノ耐彈構造、防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設ニ關スル制限ヲ輕減スルコトヲ得
- 第十七條 地方長官ハ第九條乃至第十一條ノ防護室、準防護室其ノ他防護ノ施設ノ配置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
- 第十七條ノ二 地方長官ハ内務大臣ノ指定スル種類ニ屬スル重要ナル工場又ハ事業場ニ於ケル動力設備其ノ他作業上特ニ重要ナル設備ヲ收容スル建築物ニ付テハ其ノ周壁及屋根又ハ床ヲ特ニ耐彈效力大ナル構造ト爲サシムルコトヲ得
- 地方長官ハ前項ノ建築物ニ付重要設備ノ防護ニ關シ防護壁ノ設置其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

コトヲ得

第十七條ノ三 地方長官ハ燈火管制ノ爲建築物ノ開口部ノ隱蔽其ノ他ノ設備ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條 地方長官ハ偽裝ノ爲建築物ノ形態、色彩又ハ偽裝準備裝置ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十九條 石油「タンク」ニシテ其ノ容積三千キロリットルヲ超ユルモノハ之ヲ地下ニ設クベシ但シ地方長官土地ノ狀況又ハ適當ナル防護施設ノ設置ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 一時ノ使用ニ供スル建築物ニシテ地方長官支障ナシト認ムルモノニ付テハ本令ノ規定ニ拘ラス存續期限ヲ附シ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第二十一條 第四條及第十二條、第十六條及第十七條ノ規定ハ内務大臣ノ指定スル區域ニハ之ヲ適用セズ

附 則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
従前ノ第二條ノ規定ニ基キ指定セラレタル區域ヲ除キタル區域ハ第二十一條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

防火改修規則

(昭和十七年三月二十七日)
内務省令第十六號

一〇八

第一條 防空法第五條ノ二第一項ノ區域ハ防空建築規則第二十一條ノ規定ニ依ル區域ヲ除ク市街地建築物法第二十三條ノ規定ニ依ル區域ノ全部又ハ一部ニ付地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)之ヲ指定スベシ

第二條 防空法第五條ノ二ノ木造建築物ハ左ニ掲グルモノトス

一 床面積六百平方米軒高五米ヲ超ユル木造(鐵骨木造ヲ含ム以下之ニ同ジ)建物但シ防空建築規則第五條ノ二ノ規定ニ依リ建築シタルモノヲ除ク

二 前號ニ掲グルモノ以外ノ木造建物但シ市街地建築物法施行規則ノ定ムル乙種防火地區ニ關スル規定又ハ防空建築規則ノ規定ニ依リ建築シタルモノヲ除ク

第三條 前條ノ木造建物ノ防火改修ニ付テハ本令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外防空建築規則第三條、第四條(第一項第三號ヲ除ク)、第五條、第五條ノ二(第一項第二號ヲ除ク)及第五條ノ三ノ規定ヲ準用ス

第四條 地方長官ハ防空建築規則第四條ノ規定ノ準用ニ關シ敷地ヲ異ニスル木造建物ヲ其ノ建築面積ノ合計百五十平方米以内毎ニ同一敷地内ニ在ルモノト看做スコトヲ得

第五條 地方長官已ムヲ得ズト認ムルトキハ第二條第二號ノ木造建物ノ窓又ハ出入口及其ノ周圍部ニ付防空建築規則第四條第一項ノ規定ノ準用ニ關シ三米未滿ヲ二米未滿トシ同條第二項ノ規

定ノ準用ニ關シ五米未滿ヲ三米未滿トナスコトヲ得

第六條 防空建築規則第四條ノ規定ノ準用ニ關シ隣地疆界線明瞭ナラザルトキハ互ニ相面スル建物ノ外壁間ノ中心線ヲ以テ隣地疆界線ト看做ス

第七條 木造ノ長屋ニシテ建築面積百五十平方米ヲ超ユルモノハ百五十平方米以内毎ニ地盤ヨリ屋根ニ達スル迄防火上有效ナル土塗壁ノ類ヲ以テ區劃スベシ

第八條 地方長官ハ防火改修工事ノ施行ノ爲必要アリト認ムルトキハ當該建物ニ付補強其ノ他必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

第九條 第二條第二號ノ木造建物ノ防火改修ハ地方長官ノ定ムル所ニ依リ街廓毎ニ一群トシテ之ヲ施行スベシ

第十條 防空法施行令第十一條第一項ノ費用ハ防空法第五條ノ二ノ規定ニ依ル工事ニ在リテハ當該工事ヲ施行シタル建物ノ所有者ノ負擔トシ同法第五條ノ三ノ規定ニ依ル工事ニ在リテハ工事完了ノ時ニ於ケル當該建物ノ所有者ノ負擔トス

防空法施行令第十一條第二項ノ費用ハ當該工事ヲ施行シタル街廓内ニ在ル第二條第二號ニ該當スル各建物ノ所有者ノ負擔トス

第十一條 防空法第五條ノ二ノ規定ニ依リ防火改修ヲ命ゼラレタル建物ノ所有者ハ地方長官ノ定ムル期間内ニ其ノ設計ニ付地方長官ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可申請ハ當該建物所在市町村ノ市町村長ヲ經由スベシ

第十二條 市町村長防空法第五條ノ三ノ規定ニ依リ防火改修工事ヲ施行スルトキハ其ノ設計ニ付

一〇九

地方長官ノ認可ヲ受クベシ

第十三條 前二條ノ防火改修工事竣功シタルトキ又ハ地方長官ノ特ニ指定シタル工程ニ達シタルトキハ地方長官ニ届出ヅベシ

前項ノ届出ハ當該建物ノ所在市町村ノ市町村長ヲ經由スベシ

第十四條 地方長官土地ノ狀況又ハ建物ノ用途ニ依リ必要アリト認ムルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ第三條乃至第五條及第七條ノ規定ニ拘ラズ命令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十五條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト看做ス
町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規定ハ町村長ニ準ズベキ者ニ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

防火改修規則施行細則

(昭和十七年六月二十三日
京都府令第五十號)

第一條 防火改修規則(以下規則ト稱ス)ニ依ル工事施行ニ關シ必要ナル規定ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 規則第九條ノ規定ニ依リ街廓毎ニ一群トシテ工事ヲ施行スル者ハ當該街廓ヲ單位トシテ

防火改修組合(以下組合ト稱ス)ヲ組織スルコトヲ得

第三條 前條ノ規定ニ依ル組合ヲ組織シタルトキハ左ノ事項ヲ具シ知事ニ届出ヅベシ

- 一 組合ノ名稱
- 二 組合員ノ住所、氏名
- 三 組合ニ役員ヲ置キタル場合ニ在リテハ其ノ氏名
- 四 組合ノ規約
- 五 其ノ他必要ナル事項

第四條 規則第十一條又ハ規則第十二條ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルモノハ設計書ト共ニ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ

- 一 申請者ノ住所、氏名(組合ヲ組織シタル場合ニ在リテハ組合長ノ氏名)
 - 二 設計者ノ住所、氏名
 - 三 建物所在地ノ地名番號(組合ヲ組織シタル場合ニ在リテハ街廓ノ位置ヲ表示シタル圖面)
 - 四 建物ノ用途(組合ヲ組織シタル場合ヲ除ク)
 - 五 其ノ他必要ナル事項
- 前項ノ設計書ニハ必要ナル圖面ヲ添附スベシ

第五條 前條第一項ノ規定ニ依ル設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 建物各棟別設計内譯
- 二 圖面ニ示シ難キ仕様ノ概要

三 其ノ他説明ヲ要スル事項

第六條 第四條第二項ノ規定ニ依ル圖面左ノ如シ

一 當該建物敷地境界線、建築線並ニ方位其ノ他必要ナル事項ヲ示シタル配置圖

二 改修ニ關係アル箇所ノ現狀及改修方法並ニ方位其ノ他必要ナル事項ヲ示シタル各階平面圖

三 材料ノ種類、寸法等特ニ説明ヲ要スル事項ヲ示シタル圖面

第七條 建物ノ所有者ニシテ防空法(以下法ト稱ス)第五條ノ三ノ規定ニ依リ代施行ノ請求ヲナサ

ントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ

一 申請者ノ住所、氏名

二 建物所在地ノ地名、番號

三 申請ノ理由

四 其ノ他必要ナル事項

前項ノ申請書ニハ建物ノ概要ヲ示ス圖面ヲ添附スベシ

第八條 防空法施行令(以下令ト稱ス)第十一條第四項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケントスルモノハ左

ノ事項ヲ具シ申請スベシ

一 當該街廓内ノ建物ノ所有者ノ住所、氏名

組合ヲ組織シタル場合ニ在リテハ組合名並ニ組合員ノ住所、氏名

二 工事費總額及建物ノ各棟別内譯

三 建物所有者別費用負擔割合及方法並ニ其ノ算定ノ根據

四 其ノ他參考トナルベキ事項

第九條 令第十一條第三項ノ規定ニ依ル裁定ヲ請求セントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ申請スベシ

一 當該街廓内ノ建物所有者ノ住所、氏名

組合ヲ組織シタル場合ニ在リテハ組合名並ニ組合員ノ住所、氏名

二 工事費總額及建物ノ各棟別内譯

三 協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザル事由

四 其ノ他參考トナルベキ事項

第十條 市町村長法第五條ノ三ノ規定ニ依ル工事完了シタルトキハ令第十一條第二項ノ規定ニ依

ル費用ノ決定ニ必要ナル資料ヲ知事ニ提出スベシ

第十一條 認可ヲ得タル事項又ハ申請若ハ届出ヲ爲シタル事項ノ一部又ハ全部ヲ變更セントスル

トキハ認可ヲ得タルトキノ手續又ハ申請若ハ届出ヲナシタルトキノ手續ニ準ジ當該事項ニ付認

可ヲ受ケ又ハ申請若ハ届出ヲナスベシ

第十二條 第四條、第七條及第八條ノ申請書ハ正副二通ヲ提出スベシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

京都市防火改修補助規程

(昭和十七年七月十六日
京都市告示第百三十八號)

第一條 本市ハ京都府知事ノ指定スル區域内ニ存スル木造(鐵骨木造ヲ含ム以下之ニ同ジ)建物ノ

防火改修工事施行ヲ助成スル爲毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ本規程ノ定ムル所ニ依リ補助金ヲ交
付ス

第二條 防火改修工事ノ爲本規程ニ依リ補助金ヲ交付スベキ者ハ木造建物所有者及京都府知事ノ
認定シタル木造建物防火改修ヲ目的トスル建物所有者ノ組合トス

第三條 補助金額ハ左ノ各號ノ通トシ市長之ヲ査定ス

- 一 防火改修規則第二條第一號ニ該當スル建物(大規模建物)ノ防火改修ニ在リテハ
 - イ 公設ノモノハ工事費ノ三分ノ一以内
 - ロ 私設ノモノハ工事費ノ二分ノ一以内但シ學校、病院、診療所等半公設的建物ニ在リテハ
工事費ノ三分ノ二以内
- 二 防火改修規則第二條第二號ニ該當スル建物(以下一般建物ト稱ス)ノ防火改修ニ在リテハ工
事費ノ三分ノ二以内

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ前條補助金額ノ二分ノ一以内ヲ減額スルコトアル
ベシ

- 一 正當ノ事由ナクシテ指定期限内ニ工事ヲ完了セザル場合
- 二 防火改修規則第九條ニヨリ街廓毎ニ一群トシテ工事ヲ施行スル場合組合ニ加入セズ單獨施
行ヲナス場合

第五條 補助金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ設計書三通ト共ニ左ノ事項ヲ具シ市長ニ申請スベシ
一 申請者ノ住所、氏名(組合ニ在リテハ組合長ノ氏名)
二 設計者ノ住所、氏名

三 建物所在地ノ地名番號(組合ニ在リテハ街廓ノ位置ヲ表示シタル圖面)

四 建物ノ用途(組合ヲ組織シタル場合ヲ除ク)

五 其ノ他必要ナル事項

前項ノ設計書ニハ必要ナル圖面ヲ添付スベシ

第六條 補助金ハ工事竣功検査ニ合格シタル後之ヲ交付ス但シ一般建物ノ改修ニ付組合長ヨリ補
助金ノ一部交付ノ申請アリタル場合ハ工事全工程ノ三分ノ一以上ヲ施行シタルトキニ限り竣功
前ト雖モ請負金額ノ三分ノ一以内ノ額ヲ交付スルコトアルベシ

第七條 防火改修工事施行中ト雖モ必要アルトキハ之ヲ検査スルコトアルベシ

第八條 検査ハ市長之ヲ行フ

第九條 補助金交付ノ決定ヲ受ケタル者本規程又ハ市長ノ指示シタル事項ニ違反シタルトキハ之
ヲ取消スコトアルベシ

第十條 本規程施行ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ市長之ヲ定ム
附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

耐火木材取締規則

(昭和十六年六月二十七日
内務省令第十九號)

第一條 防空建築規則第三條ノ規定ニ依ル耐火木材ヲ製造セントスルモノハ左ノ各號ニ掲グル事

項ヲ、輸入又ハ移入セントスル者ハ第一號及第二號ニ掲グル事項ヲ具シ見本品ヲ添ヘ主タル業務所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ヲ經由シ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ

一 氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、商號及業務所所在地

二 製造所ノ名稱及所在地

三 注入セントスル耐火液ノ内容及調製法

四 製造方法及製造設備(製品検査設備ヲ含ム)ノ概要竝ニ一年ノ製造能力

五 主任技術者ノ氏名及履歴

前項第三號乃至第五號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ前項ニ準ジ許可ヲ受クベシ

第二項第一號又ハ第二號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ第一項ニ準ジ内務大臣ニ届出ヅベシ

第二條

前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル耐火木材ノ製造者、輸入者又ハ移入者ハ其ノ製造、輸入又ハ移入シタル耐火木材ニ付内務省防空研究所ノ檢定ヲ受クベシ

前項ノ規定ニ依リ檢定ヲ受ケントスル者ハ別記第一號様式ノ檢定申請書ヲ内務省防空研究所ニ提出スベシ

第一項ノ檢定ニ合格シタル耐火木材ニハ別記第二號様式乃至第五號様式ノ檢定證印ヲ附ス

第三條

檢定ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ木材一石ニ付金十錢ヲ納付スベシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ用ヒ檢定申請書ニ之ヲ貼附スベシ
既納ノ手數料ハ之ヲ還付セズ

第四條

第二條ノ規定ニ依ル檢定證印ナキ木材ハ之ヲ耐火木材ト稱シ又ハ之ニ類似ノ名稱ヲ用ヒテ販賣スルコトヲ得ズ

第五條

地方長官ハ當該官吏ヲシテ耐火木材ヲ製造、貯藏若ハ販賣スル場所ヲ巡視セシメ又ハ耐火木材ヲ検査セシムルコトヲ得

第六條

耐火木材ノ製造者、輸入者又ハ移入者其ノ業務ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行爲アリタルトキ又ハ本令ノ規定ニ違反シタルトキハ内務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第七條

第一條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條

左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第九條

第一條第二項又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者

第十條

第五條ノ規定ニ依ル巡視又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

第十一條

耐火木材ノ製造者、輸入者、移入者又ハ販賣者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第十二條

本令ニ依リ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

本令ハ昭和十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令公布ノ際現ニ耐火木材ヲ製造スル者ハ本令施行後一月以内ニ第一條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲ス
 ベシ
 前項ノ規定ニ依リ許可ヲ申請シタル者ニ付テハ其ノ申請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄第
 二條ノ規定ハ之ヲ適用セズ
 本令施行ノ際現ニ存スル耐火木材又ハ第二項ノ規定ニ依リ第一條ノ許可ヲ申請シタル者ガ其ノ申
 請ニ對スル許可又ハ不許可ノ處分ノ日迄ニ製造シタル耐火木材ニ付テハ昭和十六年十二月三十一
 日迄第四條ノ規定ハ之ヲ適用セズ

別記

第一號様式

檢 定 申 請 書

- 一 耐火木材ノ品種別及材種別ノ數量
 - 一 耐火木材ノ製造所ノ名稱及所在地
- 右ニ依リ耐火木材ノ檢定相受ケ度耐火木材取締規則第二條第一項ノ規定ニ依リ及申請候
 年 月 日 業務所所在地
 申請者商號氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)

印

内務省防空研究所長宛

備考 輸入又ハ移入スル耐火木材ニ付テハ製造所ノ記載箇所ニ輸入先又ハ移入先ヲ記載スルコト
 第二號、第三號、第四號、第五號、様式省略

○自衛防空

京都市家庭防空要務規程

(昭和十六年七月二十八日)
 (京都市告示第三百八十八號)

第一章 總 則

- 第一條 本規程ハ戰時又ハ事變ニ際シ航空機ノ來襲ニ因リ生ズベキ危害ヲ防止シ又ハ其ノ被害ヲ
 輕減センガ爲京都市民ノ行フ家庭防空ニ必要ナル事項ヲ規定ス
- 第二條 家庭防空ハ各家庭、隣組又ハ町内會ニ於テ自衛的ニ防空施設ヲ整備シ有事ニ當リ各隣組
 夫々協力一致シテ組内家庭ノ警戒防護ニ任ジ其ノ完璧ヲ期スルモノトス
- 第三條 家庭防空ノ育成及指導ハ市長之ニ任ジ區長又ハ其ノ指示ヲ承ケタル町内會聯合會長、町
 内會長之ニ當ルモノトス
- 現地ニ於テ警察署長、消防署長ヨリ其ノ擔任スル防空業務ニ付指示アリタルトキハ之ニ從フ警
 防業務ニ從事中ノ警防團ヨリ其ノ職務上必要ナル指示アリタルトキ亦同ジ
- 第二章 家庭ノ任務
- 第四條 各家庭ニ於テハ豫メ夫々家族ノ分擔スル業務ヲ定メ有事ニ際シテハ家長全家族ヲ指揮シ
 テ防護ニ當ルモノトス

第五條 各家庭ニ於テ防空上實踐スベキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 燈火管制施設(消燈、隱蔽、減光、遮光等)ヲ整備スルコト
- 一 防火用貯水槽竝ニ非常用バケツノ類ヲ整備スルコト
- 一 消火器、防火用砂、火叩其ノ他ノ防火用具ヲ備ヘ付クルコト
- 一 家庭用防毒面ヲ備ヘ付クルコト
- 一 家庭用防空壕又ハ防護室ヲ設置スルコト
- 一 消毒劑其ノ他家庭用急救用品ヲ整備スルコト
- 一 其ノ他特ニ指示セラレタル事項

第三章 隣組ノ任務

第六條 隣組ハ隣保相扶ケ組内ニ於ケル燈火管制、防火、防毒、避難及救護等災害ノ防遏ニ努ムルモノトス

第七條 隣組防護ハ各家庭毎ニ豫メ擔任者ヲ定メ組内家庭ノ全員協力一致防護活動ニ従フモノトス

第八條 隣組ニ於テ施設スベキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 防火用井戸、貯水槽等用水施設ヲ整備スルコト
- 一 輕便唧筒、消火器等防火用具ヲ備ヘ付クルコト
- 一 簡易防空壕ヲ設置スルコト
- 一 其ノ他特ニ指示セラレタル事項

第九條 隣組長ニ於テ擔當スベキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 組内各家庭ニ於テ實踐スベキ事項ノ協力督勵ヲナスコト
- 一 組内ニ警報傳達ノ透徹ヲ期スルコト
- 一 災害發生ニ即應シ組員ヲ指示シテ防護活動ヲ爲サシムルコト
- 一 警防機關出動シタルトキハ之ニ協力スルコト
- 一 町内會ニ連絡スルコト
- 一 示達事項ノ周知實行ヲ期スルコト

第十條 隣組ニ於テハ隣組長故障アル場合ニ處スル爲豫メ之ガ臨時代理者ヲ定メ實施上遺漏ナカラシムルモノトス

第四章 町内會ノ任務

第十一條 町内會ハ町内共同ノ防空施設ヲ整備シ之ガ利用ノ圓滑ヲ圖ルモノトス

第十二條 町内會ニ於テ整備スベキ施設概ネ左ノ如シ

- 一 防空壕又ハ防護室ヲ設置スルコト
- 一 非常用井戸、貯水槽、貯水池等ヲ設置スルコト
- 一 消防唧筒其ノ他ノ消防器具ヲ備ヘ付クルコト
- 一 其ノ他特ニ指示セラレタル施設

第十三條 町内會長ニ於テ擔當スベキ事項概ネ左ノ如シ

- 一 警報傳達ノ徹底ヲ期スルコト

- 一 町内會隣組ノ緊密ナル連絡ヲ保ツコト
 - 一 町内會聯合會又ハ警防團ニ連絡スルコト
 - 一 町内ノ防護監視ヲ爲スコト
 - 一 示達事項ノ周知竝ニ實行ヲ期スルコト
- 第十四條 町内會長ハ毎年四月一日現在ヲ以テ別記様式ニ依リ町内隣組ノ區分竝ニ防護施設表ヲ作成シ市長(町内會聯合會及區長經由)ニ報告スルモノトス

第五章 町内會聯合會長ノ任務

- 第十五條 町内會聯合會長ノ擔當スベキ事項概ネ左ノ如シ
- 一 町内會ニ於テ爲スベキ防護施設ノ普及整備ヲ圖ルコト
 - 一 町内會ト區役所、警察署、消防署又ハ警防團トノ連絡ニ任ズルコト
 - 一 示達事項ノ周知竝ニ實行ヲ期スルコト

第六章 育成

第十六條 家庭防空ノ育成ハ有事ニ處スル精神訓練ヲ第一義トシ併セテ實際ニ即スル適切ナル防護動作ノ要領ヲ會得セシムルヲ主眼トシ豫メ周到ナル訓練計畫ヲ樹テ其ノ成果ヲ收ムル如ク指導スルモノトス

第十七條 訓練ハ防空法ニ基キ命ゼラレタル場合ノ外左記區分ニ依リ之ヲ行フ

- 幹部訓練
- 基本訓練

綜合訓練

第十八條 幹部訓練ハ町内會聯合會長、町内會長、隣組長等ニ對シ幹部タルノ識能ヲ養成スルヲ目的トシ市長之ヲ行フ

基本訓練ハ部分的基礎能力ヲ向上スルヲ目的トシ隣組、町内會又ハ町内會聯合會毎ニ區長ノ指示スル日時ニ於テ之ヲ行フ

綜合訓練ハ基本訓練ニ於テ得タル成果ヲ綜合實習スルヲ目的トシ區毎ニ市長ノ指定スル日時ニ於テ之ヲ行フ

第十九條 訓練ニ際シテハ豫メ能ク警察署長、消防署長ト緊密ナル連絡協調ヲ遂ゲ官民一體トナリ相協力シテ之ヲ實施スルモノトス

第二十條 市長ハ別ニ家庭防空指導委員會ヲ設置シ指導實施ノ圓滑ヲ圖ルモノトス

第二十一條 家庭防空育成ノ爲市、區、町内會聯合會ニ指導員ヲ置ク市、區ノ指導員ハ市長、町内會聯合會ノ指導員ハ區長之ヲ委囑ス

第七章 經費

第二十二條 家庭防空ノ爲町内共同ノ施設訓練ニ要スル經費ハ其ノ町内會ノ負擔トス

附則

- 第二十三條 本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第二十四條 本規程ハ平常ノ災害ニ之ヲ準用ス

第三條、委員會ニ幹事若干名ヲ置キ市吏員中ヨリ市長之ヲ命ス
第四條、委員長ハ委員會ヲ招集シ會務ヲ總理ス

副委員長ハ委員長ヲ輔佐シ委員長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス
幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第五條、委員長ハ會議ノ結果ヲ速ニ取纏メ市長ニ報告スルモノトス

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

京都市防火用水設備助成内規

第一條、町内會、隣組社寺等ニシテ公共ノ用ニ供シ得ル貯水池、井戸、貯水槽ヲ新設若ハ復舊シ又ハ打込ポンプヲ新設スル者ニ對シ市長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ本内規ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ助成金ヲ交付ス

第二條、前條ノ用水設備ハ左ノ水量ヲ有スルモノニ限ル

用水設備ノ種別	貯	水	量
貯水池	四〇立方米以上	水	量
井戸	直徑一、二米以上揚水程六米以内ニシテ水深一、五米以上ノモノ 揚水ポンプ設備ヲ有スルモノニシテ水深一、五米以上ノモノ	水	量

貯汁槽	一立方米以上ノモノ
打込ポンプ	管徑三〇耗以上ノモノニシテ十分間連続揚水可能ノモノ

第三條、助成金ハ工事基本額ノ三分ノ一以内トス但シ左ノ額ヲ超ユルコトヲ得ズ

用水設備ノ種別	貯	水	量	助成最高額
貯水池	四〇立方米以上	水	量	五百圓
井戸	直徑一、二米以上揚水程六米以内 揚水ポンプ設備ヲ有スル	水深一、五米以上 水深一、五米以上	量	四百圓 二百圓
貯水槽	一〇〇立方米以上 四〇立方米以上 二〇立方米以上 一〇立方米以上 五立方米以上 一立方米以上	水	量	千圓 五百圓 二百五十圓 百圓 五十圓 十五圓
打込ポンプ	十分間連續揚水可能ノモノ	水	量	十五圓

第四條 助成金ノ交付ヲ受ケムトスルトキハ第一號様式ニ依ル申請書ニ設計圖書、附近見取圖其ノ他必要書類ヲ添ヘ市長ニ申請スベシ

第五條 助成金交付ノ指令ヲ受ケタルモノ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ助成金ノ減額ヲナスコトアルベシ

一 豫定期日ニ着工セズ又ハ竣工セザルトキ

二 設計圖書ニ違背シ所期ノ目的ニ副ハザル工事ヲ爲シタルトキ

第六條 工事竣工シタルトキハ七日以内ニ第二號様式ニ依ル工事竣工届ヲ市長ニ提出スベシ

第七條 助成金ハ施設物竣工検査完了後之ヲ交付ス

第一號様式

防火用水設備助成金交付申請書

京都市

區

氏

名

今般 申請候也
ニ於テ左記ノ通防火用水設備致度候條助成金交付相成度關係書類相添ヘ此段及

昭和 年 月 日

氏

名 印

京都市長

殿

記

- 一 設置場所
- 二 用水設備ノ種別
- 三 設計ノ概要
- 四 工事基本額
- 五 工費ニ對スル財源
着手豫定 指令ノ日ヨリ 日以内
- 六 工事ノ着手及竣工期日
竣工豫定 着工ノ日ヨリ 日間以内

第二號様式

防火用水設備工事竣工届

京都市指令 第

號

ヲ以テ助成決定相受候防火用水設備工事昭和 年 月 日

竣工致候條此段及御届候也

昭和 年 月 日

京都市 區

氏

名 剛

京都市長

殿

一三〇

○警 防 團

警 防 團 令

(昭和十四年一月二十四日
勅令 第 二 十 四 號)

第一條 警防團ハ防空、水火消防其ノ他ノ警防ニ従事ス

第二條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同ジ)ハ職權又ハ市町村長ノ申請ニ依リ警防團ヲ設置スルモノトス

第三條 前條ノ警防團ニ非レバ警防團ノ名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第四條 警防團ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ土地ノ狀況ニ依リ市町村内ニ於テ適宜區域ヲ定ムルコトヲ得

第五條 警防團ハ團長、副團長、分團長、部長、班長及警防員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ分團長、部長又ハ班長ハ之ヲ置カザルコトヲ得

第六條 團長及副團長ハ地方長官、其ノ他ノ團員ハ警察署長之ヲ命免ス

第七條 團長ハ團員ヲ統率シ團務ヲ掌理ス

副團長ハ團長ヲ輔佐シ團長事故アルトキハ之ヲ代理ス

分團長、部長及班長ハ上長ノ命ヲ承ケ團員ヲ指揮シテ業務ニ従事ス

一三一

第八條 警防團ハ地方長官之ヲ監督ス

警察署長ハ地方長官ノ命ヲ承ケ警防團ヲ指揮監督ス

第九條 警防團ハ警察部長（警視廳ニ在リテハ警務部長、但シ水火消防ニ關シテハ消防部長以下之ニ同ジ）又ハ警察署長ノ指揮ニ從ヒ行動スベシ但シ緊急已ムヲ得ザル場合ニ於テハ市町村長又ハ團長ノ指揮ニ從ヒ行動スルヲ妨ゲズ

市町村長ハ其ノ擔當スル防空業務ニ付警察署長ニ協議シ警防團ニ指示スルコトヲ得

第十條 警防團ハ警察部長又ハ警察署長ノ命ニ依リ其ノ區域外ノ警防ニ應援スベシ

第十一條 地方長官及警察署長ハ警防團ノ訓練ヲ行フベシ

第十二條 警視廳官制及特設消防署規程ニ依リ設置スル消防署ノ管轄區域ニ於テハ本令中水火消防ニ關スル警察署長ノ職務ハ消防署長之ヲ行フ

第十三條 警防團員ノ服務紀律及懲戒ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第十四條 警防團員ノ定員及給與並ニ警防團ニ必要ナル設備資材ハ市町村會ニ諮問シ地方長官之ヲ定ム

前項ノ設備資材ハ市町村ニ於テ之ヲ備フベシ

第十五條 警防團ニ關スル費用ハ市町村ノ負擔トス

第十六條 市町村長ハ地方長官又ハ警察署長ノ諮問ニ應ジ警防團ニ關シ意見ヲ答申スベシ

第十七條 町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部又ハ役場事務ヲ共同處理スルモノハ本令ノ適用ニ付テハ之ヲ一町村、其ノ組合管理者ハ之ヲ町村長ト見做ス

町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ本令中町村ニ關スル規定ハ町村ニ準ズベキモノニ、町村長ニ關スル規程ハ町村長ニ準ズベキモノニ之ヲ適用ス

第十八條 內務大臣ノ指定スル市ニ於テハ警防團ノ外地方長官ノ認可ヲ受ケ市長ハ其ノ擔當スル防空業務ニシテ地方長官ノ指定スルモノニ從事セシムル團體ヲ設置スルコトヲ得

第十九條 第四條乃至第十一條及第十五條ノ規定ハ前條ノ團體ニ之ヲ準用ス、但シ地方長官又ハ警察部長トアルハ市長、警察署長トアルハ市長ノ定ムルモノトス

第二十條 地方長官警防業務ノ統制上必要アリト認ムルトキハ第十八條ノ團體ヲ指揮スルコトヲ得

警察署長職務執行上必要アリト認ムルトキハ第十八條ノ團體ニ對シ指示スルコトヲ得

第二十一條 第十八條ノ團體ノ名稱及組織並ニ團員ノ定員、服務方法、服務規律、懲戒、服裝及給與ニ關スル事項ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ市長之ヲ定ム

附 則

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ警防團及第十八條ノ團體ノ設置ニ必要ナル手續ニ關スル規定ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
消防組規則ハ之ヲ廢止ス

警防團令施行細則

（昭和十四年四月一日
京都市令第二十號）

第一章 設置及組織

第一條 警防團ノ設置又ハ變更ハ告示ヲ以テ之ヲ定ム
第二條 市町村、警防團ノ設置又ハ變更ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左ノ各號ノ事項ヲ具シ(別

記様式第一號)申請スベシ

一名 稱

二 區域、面積、戸數及人口

三 組織及定員

四 本部所在地

五 施設概要

六 給與

七 豫算

第三條 警防團ハ市町村ノ區域ニ之ヲ設ケ當該市町村名ヲ冠稱ス但シ特別ノ事情アルトキハ之ニ

依ラザルコトヲ得

第四條 警防團ハ團長一名、副團長一名又ハ二名、分團長、副分團長、部長、班長各若干名及警

防員ヲ以テ組織ス但シ分團長、副分團長及部長ハ之ヲ置カザルコトヲ得

第五條 警防團ニ顧問ヲ置クコトヲ得

顧問ハ團長ノ推薦ニ依リ知事之ヲ委囑ス

顧問ハ重要團務ニ就キ團長ノ諮問ニ應ジ團務遂行ニ關シ援助ヲ與フルモノトス

第二章 命免及資格

第六條 警防團長以下幹部ノ任期ハ各二年トス

第七條 警防員タラントスル者ハ志願書(別記様式第二號)ヲ認メ團長ヲ經由シ所轄警察署長ニ願

出ヅベシ

第八條 警防團員ニ任命セラルベキ者ノ資格條件左ノ如シ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ第

二號ノ條件ニ依ラザルコトヲ得

一 身體強健、思想堅實ニシテ品行方正ナル者

二 年齡滿十八年以上、滿四十年ヲ超エザル者

三 所屬スベキ區域内ニ居住スル者

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ警防團員ニ任命スルコトヲ得ズ

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ所犯情狀ノ酌量スベキ者ニシテ滿期後二年ヲ經過シ改

悛ノ情著シト認メラル、トキハ此ノ限ニ在ラズ

二 禁治産者又ハ準禁治産者

三 本令ノ定ムル懲戒處分ニ依リ其ノ職ヲ免ゼラレ二年ヲ經過セザル者

四 酒癖、暴行癖ヲ有シ又ハ粗暴過激ノ言動アル者

五 其ノ他不適當ト認ムル者

第十條 警防團員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ退職ヲ命ズルコトアルベシ

一 不具癡疾ニ依リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職ニ堪ヘザルトキ

- 二 傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘザルトキ
- 三 組織變更其ノ他事務ノ都合ニ依リ必要アリト認ムルトキ
- 四 其ノ他不適當ト認ムルトキ

第十一條 警防團員左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職ヲ失フ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ第二號ノ定ムル所ニ依ラザルコトヲ得

- 一 區域外ニ轉住シタルトキ
- 二 年齢滿五十年ニ達シタルトキ
- 三 所在不明トナリ一月以上經過シタルトキ

第九條第一號前段又ハ第二號ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキ

第十二條 警防團員ニシテ陸海軍ノ現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキハ其ノ間休職ヲ命ズルコトヲ得

前項ニ規定スル休職ノ期間ハ之ヲ在職年數ニ算入ス

第十三條 警防團員辭職セントスルトキハ事由ヲ具シ團長及副團長ハ知事、其ノ他ノ團員ニ在リテハ警察署長ニ願出ヅベシ

第三章 業務及團務

第十四條 警防團ノ業務概ネ左ノ如シ

- 一 災害時
- (一) 水火警防
- (二) 警戒警護
- (三) 交通整理

(四) 救護

二 空襲時

(五) 配給

(一) 警戒警護

(二) 警報傳達

(三) 燈火管制

(四) 消防

(五) 防毒

(六) 避難所管理

(七) 救護

(八) 交通整理

(九) 配給

三 平時

(一) 警戒警護

(二) 警戒

(三) 交通整理

(四) 防火

(五) 防犯

第十五條 前條ニ規定スル業務遂行上必要アリト認ムルトキハ特ニ業務ノ部ヲ指定スルコトアルベシ

第十六條 警防團長ノ管掌スベキ事務概ネ左ノ如シ

- 一 團員ノ指揮監督及訓練ニ關スルコト
- 二 團員ノ召集ニ關スルコト
- 三 指揮命令等傳達ニ關スルコト
- 四 團員ノ進退竝ニ功過ノ具申及願屆書類ノ進達ニ關スルコト
- 五 設備資材竝ニ財産ノ保存管理ニ關スルコト
- 六 諸給與、手當及被服其ノ他金品ノ請求竝ニ交付ニ關スルコト

七 地理、水利其ノ他ノ調査ニ關スルコト

八 諸簿冊ノ調製及整理ニ關スルコト

第十七條 警防團本部ニ庶務及會計ノ主任ヲ定メ團務ノ處理ニ從事セシム

第四章 教養訓練

第十八條 警察署長及消防署長ハ第十四條ノ規定ニ依ル業務遂行上必要ナル教養訓練ヲ實施ス

第十九條 前條ニ規定スル教養訓練ハ左ノ要領ニ依リ之ヲ行フ

一 訓 育

二 學 科

三 實 科

第二十條 學科訓練ハ業務ニ必要ナル法令及實務ニ就キ之ヲ行フ

第二十一條 實科訓練ハ點檢、操練、禮式、業務基本訓練、業務部隊訓練、幹部訓練等ニ就キ之ヲ行フ

第二十二條 警察署長又ハ消防署長、訓練ノ爲警防團員ノ全部又ハ一部ヲ召集セントスルトキハ豫メ其ノ日時、場所ヲ指定シ團長又ハ其ノ代理者ヲシテ之ヲ團員ニ傳達セシム

第二十三條 警防團長、團員ノ訓練上必要アリト認ムルトキハ團員ノ全部又ハ一部ヲ召集スルコトヲ得

第二十四條 前條ノ規定ニ依リ團員ヲ召集セントスルトキハ豫メ召集日時、場所、人員及訓練事項ヲ所轄警察署長ニ報告シ指示ヲ受クベシ

第二十五條 教養訓練ノ徹底ヲ期スル爲檢閲ヲ實施ス

第二十六條 檢閲ハ聯合檢閲、定期檢閲及臨時檢閲ノ三種トシ知事、警察部長又ハ所轄警察署長及消防署長之ヲ行ヒ紀律訓練ノ狀況、團員ノ技能、施設ノ完否、機械器具ノ管理狀況其ノ他一般事務ニ就キ查閱スルモノトス

第二十七條 聯合檢閲及定期檢閲ハ各毎年一回、臨時檢閲ハ隨時之ヲ行フ

第二十八條 警防團員ハ別ニ規定スル服務紀律ヲ遵守スベシ

第二十九條 警防團ノ表彰ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ行フ

一 特別功勞旗(別記様式第三號)

二 功勞卒頭綬(別記様式第四號)

三 優良卒頭綬(別記様式第五號)

規律嚴肅、訓練熟達シ且警防施設ノ改善充實ヲ圖リ其ノ成績優良ニシテ警防團ノ模範タルトキ

四 無火災卒頭綬(別記様式第六號)

一 表彰及懲戒

第二章 服務紀律

第三章 服務紀律

第四章 表彰及懲戒

第五章 服務紀律

第六章 表彰及懲戒

第七章 服務紀律

第八章 表彰及懲戒

第九章 服務紀律

第十章 表彰及懲戒

第十一章 服務紀律

第十二章 表彰及懲戒

第十三章 服務紀律

第十四章 表彰及懲戒

第十五章 服務紀律

第十六章 表彰及懲戒

第十七章 服務紀律

第十八章 表彰及懲戒

第十九章 服務紀律

第二十章 表彰及懲戒

第二十一章 服務紀律

第二十二章 表彰及懲戒

第二十三章 服務紀律

火災豫防施設充實シ且平素克ク火災豫防ニ努メ別表第一號ニ定ムル期間内其ノ區域内ニ火災ヲ發生セメシザリシトキ

五 表彰狀(別記様式第七號)

公益上顯著ナル功績アリ且其ノ行動他ノ模範タルトキ

第三十條 前條第二號及第五號ノ規定ハ分團又ハ部ニ之ヲ適用ス但シ卒頭級ハ之ヲ授與セズ

第三十一條 表彰ヲ受ケタル警防團(分團又ハ部)ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ表彰ヲ取消スコトアルベシ

一 規律ヲ紊リ名譽ヲ汚損シ又ハ訓練ヲ怠リ其ノ成績不良ト認メタルトキ

二 警防上著シキ過失又ハ怠慢ノ廉アリタルトキ

第三十二條 警防團員ノ表彰ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ行フ

一 感 狀(別記様式第八條)

防空、水火消防其ノ他災害警防ニ關シ功勞特ニ拔群ニシテ團員ノ龜鑑タル者

二 表彰狀(別記様式第九號)

規律嚴正、勤務勉勵、警防ニ關スル技能熟達シ且平素克ク警防施設ノ改善充實ニ努メ其ノ功績顯著ニシテ團員ノ模範タル者

三 賞 狀(別記様式第十號)

防空、水火消防其ノ他一般警防業務ニ關シ功績顯著ニシテ團員ノ模範タル者

四 精勤證(別記様式第十一號)

(一) 二十年以上警防ノ職ニ在リ品行方正職務ニ勉勵シ且團員ノ模範タル者
(二) 十年以上警防ノ職ニ在リ品行方正職務ニ勉勵シ且團員ノ模範タル者
(三) 一年以上十年未滿警防ノ職ニ在リ規律嚴正正常ニ勤務ニ勉勵シ特ニ訓練成績優秀ニシテ團員ノ模範タル者

第三十三條 警防團員ノ懲戒ヲ受クベキ場合左ノ如シ

一 職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リタルトキ

二 職務ノ内外ヲ問ハズ警防團員タルノ體面ヲ失フベキ行爲アリタルトキ

第三十四條 懲戒ハ左ノ三種トス

一 解 職

二 停 職

三 譴 責

停職ノ期間ハ一月以上一年以下トシ其ノ間手當ハ給セズ

表彰ヲ受ケタル者ニシテ懲戒ヲ受クルニ至リタルトキハ情狀ニ依リ表彰狀ヲ褫奪スルコトアルベシ

第三十五條 前二條ノ規定ニ依ル懲戒ハ情狀ニ因リ六月以上一年以下ノ期間内之ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ懲戒ヲ猶豫セラレタル者改悛ノ情ナキトキハ猶豫ヲ取消シ其ノ懲戒ヲ行フコトヲ得

猶豫ヲ取消サル、コトナクシテ猶豫期間ヲ經過シタルトキハ其ノ懲戒ハ之ヲ行ハズ
第三十六條 懲戒ハ團長及副團長ニ在リテハ知事、其ノ他ノ團員ニ在リテハ警察署長之ヲ行フ

第七章 諸 給 與

第三十七條 警防團員ハ必要ニ應ジ貸與及給與ヲ受ク

第三十八條 前條ノ規定ニ依リ警防團員ニ貸與スベキ物品概ネ左ノ如シ

- 一 甲種被服(帽、衣、袴、ゲートル)
- 二 乙種被服(防火用帽、衣)
- 三 團員 手帳

第三十九條 警防團員退職又ハ失職シタルトキハ貸與品ハ速ニ之ヲ返納スベシ

第四十條 職務ニ關シ警防團員ニ手當ヲ給與スル場合ハ左ノ區別ニ依ル

- 一 死 傷 手 當
- (一) 療 治 料
治療ヲ要シタル者ニ之ヲ支給ス
- (二) 休 業 扶 助 料
治療ノ爲休業ヲ要シタル者ニ之ヲ支給ス
- (三) 一 時 扶 助 料
療治料ヲ受クル者ニシテ治療ヲ受ケタル月ヨリ六月ヲ經過スルモ尙治療セザル者(休業扶助料ヲ支給スル者ニ在リテハ之ガ支給ノ事實止ミタル月ヨリ六月經過)又ハ治療半ニシテ

退職シタル者ニ之ヲ支給ス

(四) 不具癱疾扶助料

傷痍又ハ疾病ノ爲不具癱疾ニ至リタル者ニ之ヲ支給ス

(五) 遺族扶助料、弔祭料

死者ノ遺族ニ之ヲ支給ス遺族ナキトキハ弔祭料ニ限り葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス
不具癱疾扶助料及遺族扶助料ハ一時限ノ支給トス

死傷手當ハ別表第二號ニ依リ知事其ノ支給額ヲ決定シ市町村長ニ通知ス

二 職 務 手 當

出勤手當、年(月)手當、賄料、現品給與、實費辨償等ニ就キ狀況ニ應ジ之ヲ支給ス

第四十一條 一時扶助料又ハ不具癱疾扶助料ヲ支給シタルトキハ以後本令ノ規定ニ依ル他ノ扶助料ハ之ヲ支給セズ治療中他ノ原因ニ依リ死亡シタルトキ亦同ジ

第四十二條 所轄警察署長警防團員ニシテ職務ニ關シ死傷病シタルトキハ之ヲ知事ニ報告スルト共ニ市町村長ニ通知スベシ

第八章 設 備 資 材

第四十三條 警防團ニ設置スベキ設備資材ハ別表第三號ニ掲グル概目ニ就キ土地ノ狀況ヲ斟酌シ之ヲ定ム

第四十四條 市町村長警防團ニ要スル設備資材ヲ整備シタルトキハ之ヲ知事ニ報告スベシ

第四十五條 警防團ノ設備資材ハ團長之ガ保存管理ノ責ニ任ズ

- 二 團員名簿 (別記様式第十四號)
- 三 日誌 (別記様式第十五號)
- 四 設備資材臺帳 (別記様式第十六號)
- 五 管内地理水利警防一覽圖 (別記様式第十七號)
- 六 出納簿 (別記様式第十八號)
- 七 被服器具交付簿 (別記様式第十九號)
- 八 手當諸給與受拂簿 (別記様式第二十號)

附則

第五十四條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十五條 消防組規則施行細則、町村消防組員給與金額及支給例並ニ消防員扶助料給與規程ハ之ヲ廢止ス

第五十六條 第三十二條第四號ノ規定ニ依ル勤績年數ハ從來消防組員、消防員及防護團員タリシ者ニシテ引續キ警防團員ニ任命セラレタル場合之ヲ通算ス

別表第一號

無火災表彰考查標準	
警防團區域内戸數	無火災期間
三〇〇戸未滿	一三年以上

三〇〇戸以上	一〇年以上
五〇〇戸以上	八年以上
七〇〇戸以上	六年以上
一、〇〇〇戸以上	四年以上
三、〇〇〇戸以上	三年以上
五、〇〇〇戸以上	二年以上

備考 雷火其ノ他不可抗力ニ依ル火災ハ之ヲ無火災ト看做ス

別表第二號

死傷手當支給金額表

種別	支給額
療治料	實費
休業扶助料	日額 八拾五錢乃至 壹圓拾錢
一時扶助料	百圓以上

不具發疾扶助料	自用ヲ辨ズルコト能ハザルニ至リタル者	
	一肢以上ノ用ヲ失ヒ又ハ之ニ準ズベキ者	其ノ他不具發疾者
遺族扶助料	百圓以上	五十圓以上
弔祭料	貳百圓以上	參拾圓
一療治料ハ一日二圓以下トシ特ニ重症ニ依リ不足ヲ生ズルトキハ適當ト認ムベキ實費ヲ精算シ之ヲ追給スルコトアルベシ		

別表第三號 設備資材概目表

- 一 團旗
- 二 提灯
- 三 水唧筒
- 四 水管車
- 五 運搬車
- 六 水槽具
- 水桶、水囊

- 七 梯子
- 八 破壞器具一式
 - 強引機、引繩、窩口、刺又、斧、鋸、掛矢、網、叩棒、挺子ノ類
- 九 水防具一式
 - 空俵、古壘、筵、繩、鎌、杭、鋸、掛矢、蛸、スコップ、鶴嘴、ハンマー、鋤、鐵線
- 一〇 救命具一式
 - 救命網、救命袋、救助幕、救助網、擔架、救急箱(救急藥品、器具入)
- 一一 擔架
- 一二 刺叭
- 一三 警報信號器
- 一四 防空活動ニ必要ナル用具一式
 - (一) 警報傳達ニ用ユルモノ
 - ラヂオ受信機、サイレン、警鐘、警報揭示板、メガホン、信號旗、瓦斯標示旗、太鼓、拍子木、空罐、携帶燈
 - (二) 燈火管制ニ用ユルモノ
 - メガホン、自轉車
 - (三) 救護ニ用ユルモノ

別記様式第二號

警防員志願書

本籍 府 郡市町村 大字 番地
現住所 右 同

續柄 戸主又ハ戸主何某何男

職業 氏

年 月 日生 名

私儀

何警防團(第何分團第何部)警防員トシテ御採用相成度此段及御願候也

年 月 日

右 氏

名印

京都府何警察署長宛

別記様式第三號

特別功勞旗

制式 地 質 鹽 瀬

縦六〇〇耗横九〇〇耗臙脂色内側周圍ヲ幅十五耗ノ金線外側周圍ハ金モールトシ旗ノ中央ニ直径三〇〇耗ノ警防團徽章及旗ノ上部ニ特別功勞旗ノ文字ヲ金糸ノ刺繡ヲ以テ現シ旗ノ右側ニ團名及昭和何年授與、京都府ヲ白字ニテ染抜キ周圍ニ長サ六〇耗ノ紫色房ヲ附ス警防團徽章及特別功勞旗ノ文字ハ表裏ヨリ縫着スルモノトス

別記様式第三號ノ二

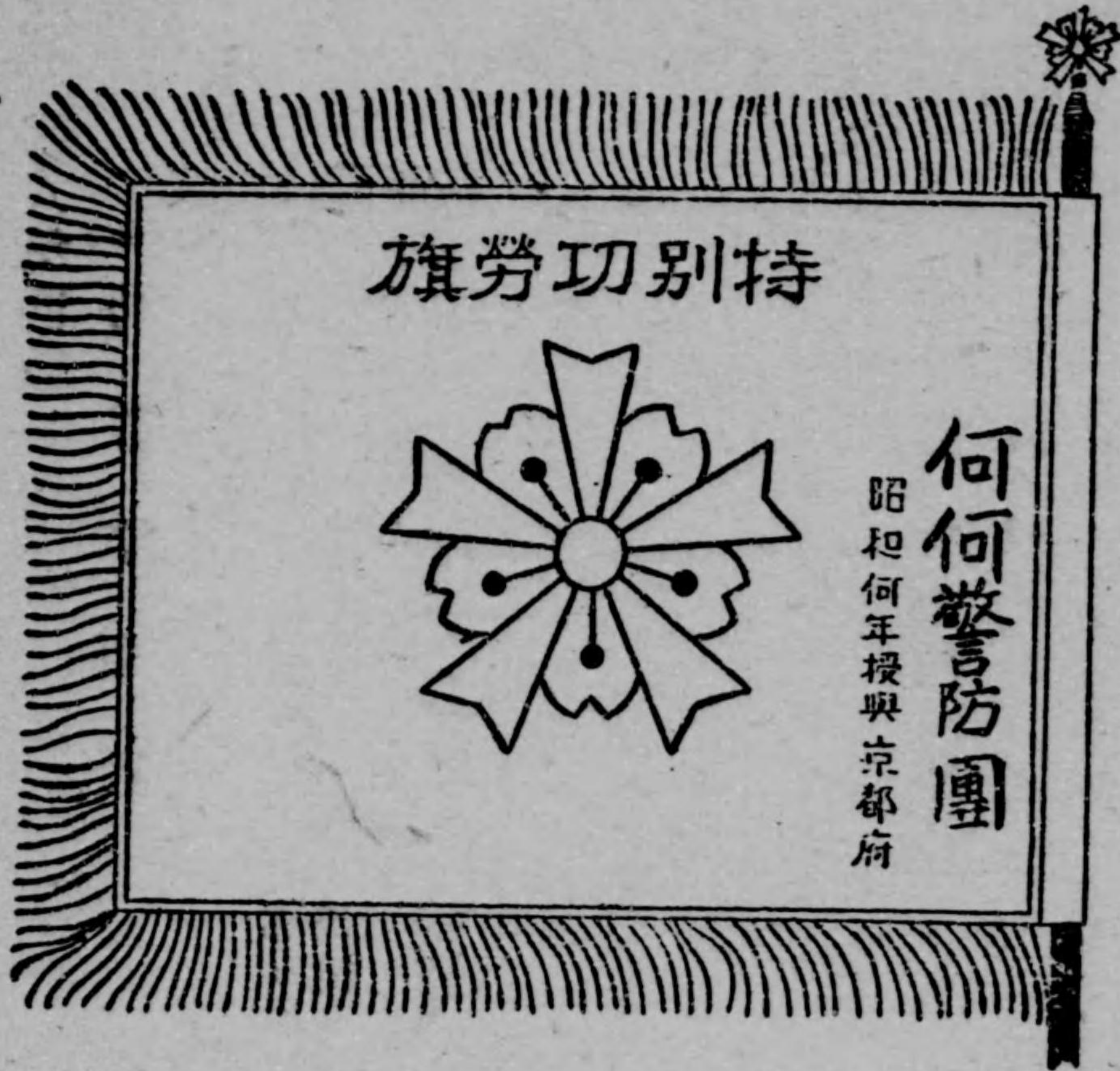
感 状

何 警 防 團

、、、、、、、、、其ノ功勞
拔群ニシテ警防團ノ龜鑑タリ仍テ茲
ニ特別功勞旗ヲ授ケ之ヲ表彰ス

年 月 日

京都府知事位勲 氏 名 印



別記様式第四號

功勞竿頭綬
制式 地質 鹽瀬

長サ九五〇耗幅六〇耗青色綬ノ上部ニ直徑四〇耗ノ警防
團徽章及中央ニ功勞表彰ト金糸ノ刺繡ヲ以テ現シ昭和何
年授與、京都府ハ白抜文字トス
警防團徽章及功勞表彰ハ表裏ヨリ縫着スルモノトス

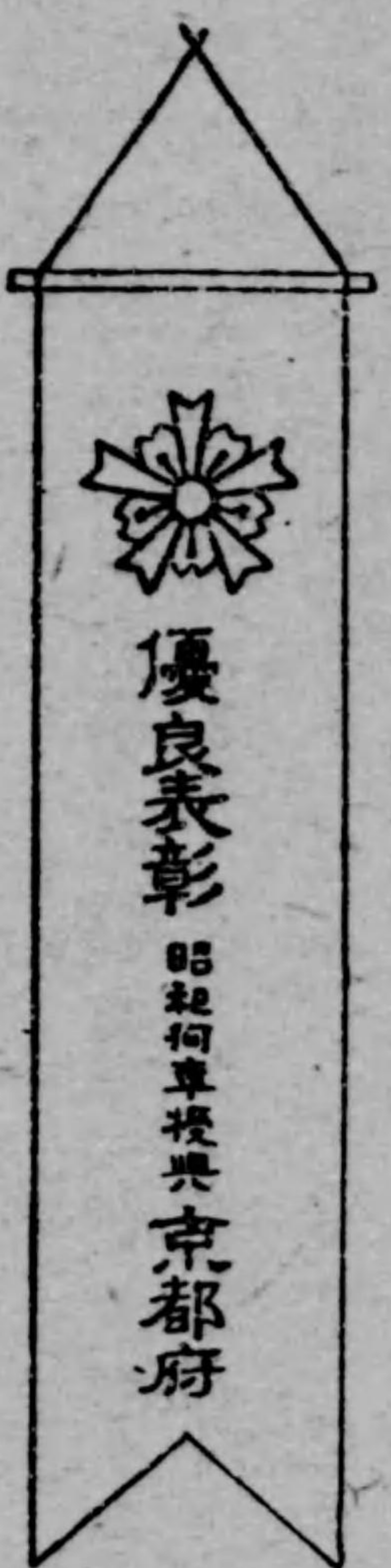


別記様式第五號

優良竿頭綬

制式 地質 鹽瀬

長サ九五〇耗幅六〇耗赤色綬ノ上部ニ金糸ノ刺繡ヲ以テ
直徑四〇耗ノ警防團徽章ヲ現シ中央ノ優良表彰、昭和何
年授與、京都府ハ白抜文字トス
警防團徽章ハ表裏ヨリ縫着スルモノトス



別記様式第四號ノ二

表彰狀

何警防團
、、、、、、、、、、其ノ功勞
顯著ニシテ他ノ模範タリ仍
テ茲ニ竿頭綬一條ヲ授ケ之
ヲ表彰ス

年月日
京都府知事位勳氏 名

備考 分團又ハ部ノ表彰狀ニハ「茲ニ竿頭綬一條ヲ授ケ」ノ文字ヲ除ク

別記様式第五號ノ二

表彰狀

何警防團
規律嚴肅ニシテ訓練熟達シ
且警防施設改善充實シ其ノ
成績優良ニシテ警防團ノ模
範タリ仍テ竿頭綬一條ヲ授
ケ之ヲ表彰ス

年月日
京都府知事位勳氏 名

別記様式第六號

無火災竿頭綬

制式 地質 鹽瀬

長サ九五〇耗幅六〇耗黄色綬ノ上部ニ金糸ノ刺繡ヲ以テ直
徑四〇耗ノ警防團徽章ヲ現シ中央ノ無火災表彰、昭和何年
授與、京都府ハ白抜文字トス
警防團徽章ハ表裏ヨリ縫着スルモノトス



別記様式第六號ノ二

表彰狀

何警防團
過去 年間其ノ区域内ニ
火災ヲ發生セシメザリシハ
火災豫防施設充實シ協力一
致平素克ク火災ノ豫防ニ努
メタルニ依ル仍テ茲ニ竿頭
綬一條ヲ授ケ之ヲ表彰ス

年月日
京都府知事位勳氏 名

別記様式第七號

表彰狀

何警防團
、、、、、、、、、、
、、、、、、、、、、
ナリ仍テ之ヲ表彰ス

年月日
京都府知事位勳氏 名

別記様式第八號

感狀

何警防團 職氏 名
、、、、、、、、、、
其ノ功勞拔群ニシテ警防團
員ノ龜鑑タリ仍テ茲ニ感狀
ヲ授ク

年月日
京都府知事位勳氏 名

別記様式第九號

表彰狀

何警防團 職氏 名
、、、、、、、、、、
警防施設ノ改善充實ニ關シ
盡瘁シタル其ノ功績顯著ナ
リ仍テ之ヲ表彰ス

年月日
京都府知事位勳氏 名

別記様式第十號

賞狀	何警防團 職氏名
精勤證	何警防團 職氏名
精勤證	何警防團 職氏名

、、、、、、、、、、其ノ功績
顯著ニシテ警防團員ノ模範
タリ仍テ之ヲ表彰ス
年月日
京都府知事位勳氏 名
(京都府警察部長)

別記様式第十一號

精勤證	何警防團 職氏名
精勤證	何警防團 職氏名

(十年、二十年)以上警防ノ
職ニ在リ品行方正職務ニ勉
勵シ警防團員ノ模範タリ仍
テ之ヲ表彰ス
年月日
京都府警察部長位勳氏名

別記様式第十一號ノ二

精勤證	何警防團 職氏名
精勤證	何警防團 職氏名

品行方正規律嚴正職務ニ勉
勵特ニ訓練成績優秀ニシテ
警防團員ノ模範タリ仍テ之
ヲ表彰ス
年月日
京都府警察部長位勳氏名

別記様式第十二號

京都府知事宛
特設團體設置(變更)届
學校(社寺、病院)名
今般左記ノ通自衛團體設置(變更ニ在リテハ「何自衛團何々左記ノ通變更」致候條警防團令
施行細則第五十條ニ依リ此段及届出候也

年月日
代表者 氏 名

- 記
- 一名 稱 何自衛團
 - 二 設置學校(社寺、病院)名
 - 三 設置年月日
 - 四 所在 地
 - 五 設置者ノ事業ノ種類
 - 六 團員 數 何名
 - 七 組 織
 - 八 設備資材ノ概要
 - 九 服務 方法
 - 十 給與ノ狀況
 - 十一 團 則
 - 十二 其ノ他參考事項
- 別記様式第十三號

沿革錄

年	月	日	記	事

- 記載例
- 一 警防團ノ沿革
 - 二 區域ノ變更
 - 三 組織ノ變更
 - 四 定員ノ増減
 - 五 機具ノ沿革
 - 六 建物ノ沿革
 - 七 役員ノ變更
 - 八 訓練檢閲災害出動事項
 - 九 事業ノ概要
 - 十 其ノ他警防事項

別記様式第十四號

團員名簿

摘要	賞罰	公職	兵役關係	住所	本籍	部分團名	職名	係名
						職名		

記載例 略歴賞罰ニハ事項ノ外年月日ヲ明記スルコト
別記様式第十五號

年	月	日	誌	事
---	---	---	---	---

記載例

- 一 訓練、檢閲、出火其ノ他災害出場、機關點檢、團員異動等月日ノ順序ヲ逐ヒ記載ノコト
- 二 夜警ニ關スルモノハ夜警日誌ニ記載スルコト

別記様式第十五號ノ二

夜警日誌

勤務	天候	火災有無	勤務記事	摘要	自	至	時分	服務
					月	月		
	風力				前	後		

記載例

- 一 本簿ハ夜警ヲ行ヒタル場合ニ記載スルモノトス
- 二 風力ハ北(東、南、西)風何米ト記載スルコト
- 三 火災アリタルトキハ時刻、場所、大火、小火ノ別及罹災世帯數等記載スルコト
- 四 其ノ他災害警防ニ關スル事項ニ付記載スルコト

號ノ事項ヲ調査ノ上進達スベシ

- 一 組織定員ハ警防上適當ナリヤ
- 二 設備資材ハ警防上適當ナリヤ
- 三 給與及豫算ノ適否
- 四 其ノ他參考事項

第三條 警察署長警防團長ヨリ顧問ノ推薦アリタルトキハ市町村長其ノ他關係方面ト緊密ナル連絡ヲ圖リ意見ヲ具シ速ニ之ヲ上申スベシ解職ノ必要アリト認ムルトキ亦同ジ

第四條 警察署長團長又ハ副團長ノ任命ニ當リテハ市町村長其ノ他關係方面ト緊密ナル連絡ヲ圖リ意見ヲ具シ内申(別記様式第一號)スベシ

第五條 警察署長必要アリト認ムルトキハ警防員志願書ニ市町村長其ノ他ノ推薦書ヲ添附セシムベシ

第六條 警防團員ノ辭令ハ別記様式第二號ニ依ル解任ノ場合ハ辭令ヲ用ヒズ

第七條 警察署長ハ團長又ハ副團長ニシテ細則第十條乃至第十二條ニ該當スルニ至リタルトキハ速ニ意見ヲ具シ申報スベシ團長又ハ副團長死亡シタルトキハ其ノ報告スベシ

第八條 警察署長、團長又ハ副團長ノ辭職願ヲ受理シタルトキハ其ノ理由ヲ調査シ之ヲ進達スベシ

第九條 警察署長警防團ニ就キ細則第十五條ノ規定ニ依ル業務ノ部ヲ指定スル必要アリト認ムルトキハ其ノ事由ヲ具シ上申スベシ

業務實施上必要アル場合ハ係ヲ設クルコトヲ得

第十條 警防團ノ統轄本部ハ所轄警察署ニ置クベシ

第十一條 警察署長及消防署長ハ細則第十八條ノ規定ニ依ル訓練實施ニ就キ豫メ計畫ヲ樹立シ實施ノ成績ヲ翌月五日迄ニ警察部長ニ報告(別記様式第三號)スベシ

第十二條 警察署長及消防署長ハ訓練ノ徹底ヲ期スル爲警察、消防官吏中ヨリ警防主任並ニ方面毎ニ訓練主任ヲ命ジ警防團ノ訓練ニ當ラシムベシ

第十三條 細則第二十六條ノ規定ニ依リ行フ査閲要目左ノ如シ

- 一 人員、服裝、姿勢ノ整否
- 二 點檢、操練、禮式ノ良否
- 三 規律ノ張弛
- 四 機械器具其ノ他施設ノ完否及保存ノ適否
- 五 機械器具ノ操法其ノ他警防動作ノ適否
- 六 應召諸準備ノ適否
- 七 前各號ノ外警防ニ關スル必須事項

第十四條 警察署長及消防署長檢閲ヲ行ヒタルトキハ其ノ成績ヲ速ニ警察部長ニ報告スベシ

第十五條 警察署長細則第二十九條第一號、第二號又ハ第五號ノ規定ニ該當スル警防團若ハ第三十條ニ該當スル分團又ハ部アルトキハ其ノ都度第二十九條第三號及第四號ノ規定ニ該當スル警防團アルトキハ毎年三月中ニ上申(別記様式第四號)スベシ

第十六條 警察署長細則第三十二條第一號又ハ第三號ノ規定ニ該當スル者アルトキハ其ノ都度第三十二條第二號及第四號ノ規定ニ該當スル者アルトキハ毎年十月中ニ上申（別記様式第五號又ハ第六號）スベシ但シ急ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 警察署長細則第三十一條ノ規定ニ該當スル警防團（分團又ハ部）アルトキハ狀ヲ具シ上申スベシ

第十八條 警防團（分團又ハ部）ニシテ表彰ヲ取消サレタル場合ハ警察署長ハ特別功勞旗、竿頭綬又ハ表彰狀ヲ返納セシムベシ

第十九條 警察署長團長又ハ副團長ニ對シ懲戒處分ヲ爲シ又ハ之ヲ猶豫シ若ハ取消スノ要アリト認ムルトキハ狀ヲ具シ上申スベシ

分團長以下ノ團員ニ對シ懲戒處分ヲ爲シ又ハ猶豫シ若ハ取消シタルトキハ速ニ其ノ要領ヲ報告スベシ

第二十條 細則第四十二條ノ規定ニ依ル報告竝ニ通知ハ左ノ事項ニ就キ五日以内ニ之ヲ爲スベシ

- 前項ノ傷病痕ニシテ治療日數一月以上ニ互ルトキハ一月毎ニ其ノ經過及治療狀況ヲ報告スベシ
- 一 死傷病者ノ團名、職名、氏名及生年月日
 - 二 死傷病ノ日時
 - 三 死傷病ノ場所
 - 四 醫師診斷書又ハ之ニ代ハルベキ者ノ證明書添附
 - 五 死傷病ノ原因竝ニ其ノ狀況

六 治療狀況

七 其ノ他參考事項

第二十一條 警察署長警防團員ニ對シ死傷手當ヲ支給スルノ必要アリト認ムルトキハ左ノ各號ノ書類（別記様式第七號又ハ第八號）ヲ添附シ上申スベシ

- 一 療治料及休業扶助料ノ上申書ニハ醫師ノ診斷書寫又ハ之ニ代ルベキ者ノ證明書及領收書又ハ治療實費證明書
- 二 一時扶助料及不具癈疾扶助料ノ上申書ニハ詳細ナル醫師ノ診斷書
- 三 遺族扶助料及弔祭料ノ上申書ニハ醫師ノ診斷書又ハ檢案書及在職履歷書竝ニ死亡後ノ戶籍抄本

第二十二條 細則第四十條ノ規定ニ遺族ト稱スルハ京都府吏員恩給條例ニ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

第二十三條 警察署長細則第五十條ノ規定ニ依ル届出ヲ受理シタルトキハ速ニ進達スルト共ニ其ノ概要ヲ關係警防團長ニ通知シ緊密ナル連絡ヲ保持セシムベシ

第二十四條 警察署ニ左ノ簿冊ヲ備ヘ異動ノ都度加除訂正スベシ

- 一 警防團編成臺帳 (別記様式第九號)
- 二 警防團員名簿 (別記様式第十號)
- 三 警防團設備資材臺帳 (別記様式第十一號)
- 四 自衛團臺帳 (別記様式第十二號)
- 五 警防團員命免簿 (別記様式第十三號)

- 六 警防團員賞罰簿 (別記様式第十四號)
- 七 火災事件報告書類編冊
- 八 警防往復書類編冊
- 九 警防雜纂

別記様式第一號

年 月 日

京都府知事宛

警察署長

警防團長(副團長)任命内申書

團名	本籍	住所	職業氏名生年月日	缺員補充又ハ増員任命ノ區別	公職其他社會的地位及學歷	兵役ノ關係

其他參考意見

注意

- 一 兵役ノ關係欄ニハ役種官等級ヲ記入ノコト
- 二 其他參考意見欄ニハ信望手腕等適任ト認ムル理由ヲ略記スルコト

別記様式第二號

別記様式第二號ノ二

何警防團(團、副團)長ヲ命ス

年 月 日

氏 名

京都府知事 位勳 氏 名 印

何警防團(分團、部、班)長ヲ命ス

年 月 日

氏 名

京 都 府

別記様式第二號ノ三

別記様式第二號ノ四

何警防團警防員ヲ命ス

年 月 日

京 都 府

氏 名

何警防團顧問ヲ囑託ス

年 月 日

京都府知事 位勳 氏 名

別記様式第三號

昭和 年 月 日 警察 署

警防團訓練成績報告

日 時 場 所	訓練要目	集合團名(分團、部、班名)	出席團員數	欠席團員數	訓練ノ概況

備考 一 訓練要目ニハ點檢操練又ハ燈火管制ノ學科、唧筒及水管車操法、基本訓練等ト記入ノコト

一 集合團名ニハ一團全員集合ノ外分團、部、班毎ニ集合ノ場合ハ之ヲ區別シ記入ノコト

別記様式第四號

年 月 日

京都府知事宛

警察 署 長

警防團(特別功勞、功勞、優良、無火災)表彰ノ件上申

訓練狀況	過去三年間ニ於ケル警防經費	警防施設狀況	團 員 數					沿革	設置區域内戸數	設置區域内人口	警防團名	警防團設置年月日	團長氏名
			團長	副團長	分團長	副分團長	部長						
	年別ニ記載ノコト	優良、無火災表彰ニハ過去三年間ニ於ケル施設狀況ヲ詳記ノコト											

常時ニ於ケル活動状況	
業務ノ改善充實状況	
非常時ニ於ケル過去ノ功績概要	消防組設置以來ノ功績ニ付記載ノコト
過去ニ表彰セラレタルコトアラバ其ノ概要	
功績又ハ細	優良、無火災表彰ニハ記載ヲ要セズ
警防後援團體	
特ニ優良(功勞、無火災)事實詳細	
其ノ他参考事項	

別記様式第五號

備考 優良、無火災表彰上申書ニハ組織定員表、設備資材表及職務手當金額表ヲ添付スルコト

年 月 日
京都府知事宛

警察署長

警防團員表彰ノ件上申

表彰種別 (感狀、表彰狀、賞狀)	就職年月日及勤続年數	團名	警防團
	精勤證ノ種別及授與年月日	職名	
經歷ノ概要		氏名	年 月 日生
功勞又ハ功績詳細			
其ノ他参考事項			

別記様式第六號

年 月 日
京都府知事宛

警察署長

警防團員精勤證授與ノ件上申

拜命年月日	勤続年數	成績	團名	職名	氏名
年 月 日	年 月				
年 月 日	年 月				
年 月 日	年 月				

備考 一 二十年以上、十年以上各別紙トシ團毎ニ筆頭順ニ依リ連記スルコト
 二 成績欄ニハ品行、紀律、勤務、技術、功勞等ノ成績ヲ記載スルコト
 三 毎年九月末日現在ヲ以テ調査スルコト

別記様式第七號

京都府知事宛

警察署長

警防團員療治(休業、一時、不具癈疾扶助)料支給ニ關スル件上申

種別	團名、職名、氏名	傷病癈年月日	治療年月日
警防團		昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
事項		年 月 日	年 月 日

傷病癈名	治療日數	休業日數	治療實費	醫療狀況	傷病癈當時ノ狀況詳細	支給額ニ對スル意見	其ノ他參考事項
	自昭和 年 月 日 計 日間	自昭和 年 月 日 計 日間	金 拾 圓 拾 錢 也				一時扶助料ニ在リテハ家庭及生活狀況ヲ詳記スルコト

別記様式第八號

京都府知事宛

警察署長

警防團員遺族扶助料 弔祭料 支給ニ關スル件上申

警 防 團							團名分團名
計	第 分 團			第 分 團			部名
	第 部	第 部	第 部	第 部	第 部	第 部	
							區 域
							團 長
							副團長
							分團長
							副分團長
							部 長
							班 長
							警 防 員
							部下計長
							分團計長
							合 計

別記様式第九號

警防團編成臺帳

其ノ他參考事項

種 別	團名、職名、氏名	殉職者本籍	殉職者住所	資 產、經 業	扶助料ヲ受クベキ者 弔祭料ノ住所、氏名、年齢 續柄	遺 族ノ 狀 況	殉職者拜命年月日 勤 續 年 數	殉職年月日時	殉 職 場 所	殉職ニ至リタル原因 並ニ當時ノ狀況詳細 支給額ニ對スル意見	事 項
							昭和 年 月 日	昭和 年 月 日			警防團
							日 拜 命 (階級別ニ年)	日 午 時 分			年 月 日 生
							月 間 勤 續				

警防團					名	團
分					名	分
計					族	團
					張	高
第	第	第	第	第	部	
部	部	部	部	部	部	
					具	器
					筒	動力
					筒	機
					筒	械
					筒	腕
					筒	特
					車	手
					車	運
					桶	玄
					囊	手
					ク	布
					子	梯
					口	爲
					又	刺
					矢	掛
					網	
					子	挺
					網	救
					袋	命
					幕	救
					架	擔
					面	防
					衣	防
					叭	喇
					灯	提
					々	其
					何	他
					々	々

本名簿ハ警防團又ハ分團、部毎ニ區別スルコト

拜命昭和	拜命昭和	拜命昭和
年	年	年
月	月	月
職	職	職
名	名	名
日	日	日
年	年	年
氏	氏	氏
月	月	月
日	日	日
名	名	名
生	生	生

